財団法人 日本ハンドボール協会編　平成23年 7月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻519号　昭和40年6月7日第3種郵便物認可

ハンドボール

6・7

JUN.JUL.2011・No.519

特集

日韓代表国際交流定期戦2011
第8回東アジアクラブ選手権



[表紙写真:日韓代表国際交流定期戦2011、男子代表チーム・門山哲也選手:写真提供・スポーツイベント社]

財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/

常務理事就任にあたっての抱負



(財)日本ハンドボール協会常務理事　藤森　徹

今年度から日本協会の理事会体制が新たな体制で始動しました。常務理事を拝命し、重責を担う立場として抱負を述べさせていただきます。

すでに日本協会のホームページには23年度の事業計画、事業達成のための組織図が公開されております。組織図の示すとおり、マーケティング本部の副本部長、総務本部の副本部長として、川上マーケティング本部長、大橋総務本部長をマトリックス的に補佐し、協会の各事業目的の達成のため努力をしてまいります。

マーケティングに関しましては、平成21年、22年度と協会のマーケティング委員会に参事として参画いたしました。その活動の中で、日本のハンドボールの認知度を上げ、潜在的に存在するバリューを高め、一般ファンの競技大会への観戦、集客の必要性を強く感じました。特に、ハンドボールの持つ魅力、バリューとは何かについて深く考えさせられました。先人の協会役員、地域協会、全国各種連盟、普及委員会のこれまでのたゆまぬ努力で、小学生、中学生、高体連、学連、社会人、マスターズ、車椅子、ビーチハンドボールと10万人を優に越えるハンドボーラーが日本協会を軸として活動しています。ハンドボールは自分で参加すると本当に面白いスポーツと言う事は実証されており、この事はハンドボールの大きな高い価値と考えられます。

又、日本リーグプレーオフ、ジャパンカップ、国体、全日本総合と国内で開催されるメジャー大会の観戦に訪れた方々は口をそろえて、ハンドボールは見て面白く、感激したとの評価を受けます。これもダイナミックな競技として、ハンドボールの持つ高い価値であると思います。ポイントは如何に多くの会場観戦客、メディアでのファンを集客し、認知度を上げるかです。

次に、世界、アジアにおける日本のハンドボールのバリューについて考えて見ます。オリンピックへの出場実績を鑑みますと、日本は1988年のソウルオリンピックに男子の日本代表チームが参加して以来、予選敗退で出場が叶わず、残念ながら世界レベルで見た日本のハンドボールのバリューは決して高いものではありません。次期ロンドンオリンピックへの出場こそが日本のハンドボールのバリューアップ飛躍の原動力と考えられ、協会の総力は"日本代表チームの強化"にベクトルが向けられています。

このような現況に在って、マーケティング本部として、広報部との連携の下、あらゆるジャンルの方々に働きかけ、シンパ、サポーターの動員・宣伝活動を展開し、ハンドボールの認知度、バリューの向上に邁進いたしたいと思います。又、日本はリーマンショック後の経済の低迷、今回の未曾有の大震災、津波、二次災害としての原発事故と経済的には大変厳しい状況にありますが、界友会という貴重なネットワークと日本協会マーケティング本部との連携の中、ハンドボールの認知度の向上、バリューアップ、メジャー化を目指して渾身の努力を注ぎます。

総務部の役割に関しましては、平成23年度の総務部の主事業計画目標となっています公益財団法人への移行プロジェクトを担当いたします。平成20年12月に公益法人制度改革に係る整備を含む税制改正法が施行され、平成25年11月末日までに公益法人認定申請を施さないと、日本協会（現在は特例民法法人として見なされている）は現状のままでは存続できません。公益認定を受けることによって、財団事業運営のガバナンス機構がより明確化され、公益目的事業から得られる収益に対する非課税化、寄附行為に対する優遇措置とボランティアと非営利活動を実施している協会にとっては税制面でも多大なメリットが得られます。移行認定申請業務を開始し、認定・許可、新公益法人の移行登記までには最低1年もの時間と膨大な申請業務が必要になります。評議員、理事、監事の方々のご理解とご協力の下、遅滞無い認定申請と、認可取得を図りたいと思います。

以上、マーケティング任務、総務関連任務について抱負を述べましたが、全て、日本のハンドボールが如何に向上し、世界に伍すべく成長するための必要な活動と認識しています。全国のハンドボール各連盟、都道府県協会の役員の方々、ブロック役員の方々により一層のご協力を賜り、日本のハンドボールの発展に寄与したいと考えます。

日韓代表国際交流定期戦 2011

開催地：韓国　光明市　　会場：光明室内体育館（Gwangmyeong indoor Gymnasium）　　日時：平成23年4月24日（日）

日韓代表国際交流定期戦 2011 大会報告

団長　川上 憲太

2009年から毎年行われている日韓戦は、今年は韓国・光明市で行われた。1400名収容の光明市体育館は、コンパクトでハンドボールには適当な大きさと感じた。SKグループの企画で興行性の高い大会となっていた。観客は、超満員（入場料は無料で賞品がくじで当たる）で、日本選手団にとっては完全にアウェイの状況であった。東日本大震災に対し、試合開始前に会場全員で黙祷が行われた。試合はKBS放送がライブ中継を行い、日曜の午後の中継なので視聴率も良かったことと想像する。

試合は、男女とも韓国のこの試合に対する十分な準備と気構えに圧倒された。

韓国女子代表はアジア競技大会、アジア選手権のメンバーから体格のある選手に一部切り替えが行われていた。対する日本女子代表は、エース藤井を欠く中、新加入の山野選手（左利き、ソニー）の活躍もあったが、全体的に日本のポイントである守備、攻撃両面とも十分でなく完敗となった。

一方、韓国男子代表は、引退をささやかれたペク、ユンを入れ、スピードは感じないがテクニックで若手の力を引き出す形を取っていた。また若手主体のメンバーが基本だが、主砲二人の内一人がオンコートの場合は、あまりかみ合わなく日本にも十分勝機はあった。日本ディフェンスの要富田選手を欠く中、読み通りのディフェンスが出来ない状態で、攻撃でのコンビネーションミスも多く、シュートに関しても相手GK（大会MVP）の好守にことごとく阻まれ、一度もリードを奪うことなく敗れた。韓国のこの試合に掛ける思いは強く、オリンピック予選を控えた駆け引きというより、現在のフルメンバーで望んできた。日本チームも「日本の元気を試合で見せる」とチーム全員で挑んだが、気力が空回りした状態であった。

オリンピック予選に向けての大事な試合であったが、今後のトレーニングに死にものぐるいで取り組まなければ目的は達成できないと肝に銘じた大会であった。

男子　日本代表男子チーム監督　酒巻 清治

4月8日（金）、東日本大震災の影響が日本各地を席巻しているなか、我々男子日本代表チームは世界選手権後、国内シーズン終了を受け10月に開催されるロンドンオリンピックアジア予選にむけ最終スパートをかけるべく始動した。

昨年11月に開催されたアジア大会においてアジアのライバル国と対戦できたが、韓国との対戦が叶わず、今回の日韓戦についてはアジア予選への布石として様々な状況を想定して対戦することが出来たことは我々にとって大きな意味を持った。



写真提供：スポーツイベント社

合宿集合時には、震災の影響により招集メンバーの50%程度にしか満たなかったが、いずれもチームの中核をなすメンバーであり、特にDF面での充実感は大きなものであった。

合宿が進むにつれ、東アジア選手権出場の湧永製薬組の合流を受け、フルメンバーがそろい臨戦態勢を整えることが出来た。

試合前日に韓国入り、急きょ利用可能になった試合会場での調整を行い、試合に臨んだ。

立ち上がりからセットでの攻防において、特にDFシステムでの課題を明確にしながら試合を進め、時には相手メンバーによりシステムチェンジを行えるよう準備したものが、随所に発揮された。しかしながら、セットOFでの技術的ミスの発生により相手の速攻を簡単に許してしまったこと、フリースペース（速攻においても）はクリエイトできるものの、相手GKのアグレッシブなセービングに阻まれ、8点差ビハインドの厳しい状況で前半を折り返さなくてはならなかったことが結局最後まで尾を引いた。後半に入り相手がDFシステムをチェンジしてくることは容易に予測できたため、昨年のジャパンカップのような統一感のない攻撃はなりをひそめ、しっかりと相手のウィークポイントを攻め込むことが出来たことは収穫であった。結果、ユン・キョンシンがベンチに下がってからは韓国の得点を単発に分断することに成功、3点差まで詰め寄った。

ここから世界選手権以降の課題がいまだ解決できていない現実にさらされる。前半同様フリースペースがクリエイト出来たり、速攻でのイージーゴールの局面を迎えるものの、相手GKの素早い位置取りに手を焼き再三のシュートチャンスを逃してしまう。セットDFにおいても、ユン選手を再投入

してきた韓国のOFが落ち着きを取り戻し、日本DFのほころびが見えたところを的確につかれ、失点を許した。

試合の結果については期待に添えるものではなく残念なものであったものの、セットDFにおいて韓国バックプレーヤーのタイプによって2人ないしは3人のコンビネーションの「変化」により、攻撃の芽をつむことが出来た。世界選手権まで構築してきたチームDFをもとに、個人の判断による変化が可能になってきたことは、大きな前進である。今後はセカンドメンバーを更に強化し、チーム全体のDF力を高めることができれば、対戦チームのDFシステムにナーバスにならず、試合へ向けた準備が可能になる。

速攻を含めた攻撃面では課題はいまだ解決できていない。しかし、今回の試合に向けた「取り組み」の一つとして「相手DFのシステムチェンジに対応する」ということを掲げたが、これは簡単にクリアー出来た。もちろん攻撃時の全ての局面で、スピーディーかつ正確な「判断」と「結果」が出来ていたかとなると未だ十分ではない。今後の強化課題が浮き彫りになったかたちである。

一時の休養を挟み、5月6月の徹底強化期間を経て、8月9月の欧州遠征では強豪チームとの対戦、予選に向けた準備を着々と進めていかなければならない。

最後にあたり、日韓戦開催に向けご尽力頂いた日本協会事務局・トレセンスタッフ、並びに震災の影響のある中選手派遣にご協力頂いた各チーム、大会運営に携わられた韓国協会にこの場をお借りし御礼申し上げます。



写真提供：スポーツイベント社

10月のアジア予選に向け、厳しい強化を継続し皆さんの期待にこたえることが出来るよう全力を尽くします。今後とも今まで以上のご支援・ご声援頂きます様、何卒よろしくお願いいたします。

女子　女子代表チームヘッドコーチ　黄　慶泳

大会の準備について

■事前強化合宿

1. 強化合宿日程
   2011年4月11日（月）－ 22日（金）
2. 強化ポイント
   ①チームの基本戦術確認
   ②新戦力4名のコンディション&可能性確認
   （山野、永田、田口、飯田）
   ③大学生との合同練習&ゲーム感覚作り
3. 強化指定選手23名参加

大会について

日時：2011年4月24日（日）
会場：韓国．光明室内体育館
（戎野選手の怪我により15名で大会参加）
＊試合前のミーティングポイント
①大きく5パターンで組み立てて試合を動かすことを全員が理解すること
A．東濱のCB
B．石立のCB
C．永田のダブルポスト移行
D．上町・石立・山野のサイドからの展開
E．巻／小野澤のダブルポスト
②今回韓国戦のゲームストラクチャをしっかり理解して表現すること。
第1局面：徹底して6：0スライド&スイッチディフェンスで対応
第2局面：PVを起点とした展開力強化
第3局面：アウトスペースの攻め
オープニング&展開の中で
飛ばしパスの利用
数的有利な状況の作り意識（2対1）
間合いの使い方&セカンドポジションの修正意識
第4局面：数的有利な状況&攻撃的な守り
③国際試合デビューする選手の積極的なプレー&チャレンジに期待
（永田、山野、飯田、田口、前田）

課題&今後の取り組みについて

今回の日韓定期戦では韓国チームとしては良い準備をして最高のチーム状況で戦ってくると予想していた。

それに対して日本チームとしては今までのチーム力に新戦力として誰が期待できるかを確認することで意味を持つ準備と戦いをした。

その理由としては怪我人も含めて主力数名の代表チーム召



写真提供：スポーツイベント社

集が出来なかったこと、10月のオリンピック予選を控えての駆け引きの考え方もあった。

結果として大差で負けた原因としては、

①今大会では綿密な対策&準備が出来なかった。（日本チームの基本戦術の理解&確認）

②日本リーグが終わってからのオフシーズンで、選手のコンディションは怪我も含めて戦える状況ではなかった。特にコンタクトフィットネス&走力がなかった。

③センターバックディフェンスをしている植垣選手の怪我、交代で起用した新戦力永田選手と周り選手との連携ミス等もあって守りの軸が安定しなかったこと。

④攻撃のコンビネーションのミスから逆速攻での失点も含めて全体的に走られた試合の流れで、韓国がリズム良く攻めていたこと

以上が敗因であると認識している。

収穫としては①攻撃で新戦力・山野選手の活躍と守りで永田選手のセンターバックディフェンダーとしての可能性②試合内容は崩れていながらも選手たちが精神的に安定していたことは明るい材料であったと認識している。

韓国チームは最高の仕上がり状況でよいチームプレーをしていて昨年度のアジア大会とアジア選手権から少しの変化が観られた。

①ポジション別にベテラン選手の再招集

②チーム全体の長身化

③守ってから速攻の展開が速くなっていた

④攻撃の攻め方がポジションプレーから横のスペースに大きく移動しながら個人技を使えるようになって、全体的にバリエーションも増えてきた。

今回の戦いでは韓国チームの身長が全体的に大きくなってベテランと若手のチームバランスが整えてきており、戦術の中で運動量もスピードもよく理解して戦っていた。

韓国チームが今回の戦いで見せたチーム構成&プレーの表現は今後これ以上を発揮するのは難しいだろうとは思う一方、日本チームとしては今の現実をしっかり受け止めてオリンピック予選に照準を合わせて準備に入りたい。

実現！オリンピック出場。引き続き女子代表チームのご声援宜しくお願い申し上げます。ありがとうございました。



写真提供：スポーツイベント社



写真提供：スポーツイベント社

［戦 評］

■女子

平成23年4月24日（日）13：30～

日本代表女子　18（11-17、7-15）32　韓国代表女子

韓国で行われた日韓戦は、立ち上がり6：0DFをひく日本に対し、大きい展開から個人技で突破する韓国OFに食らいつき3対3と互角のスタートとなった。しかし、中盤以降個人技に対するチーム徹底が崩れてしまい徐々に韓国ペースとなる。日本は新加入・山野の活躍もあったが点差を広げられる展開となり前半11対17で折り返す。

後半、変則5：1DFをしかけ得意の機動力を活かそうしたが、なかなか足が動かない日本に対し、韓国は組織からの個人技を織り交ぜた新しいスタイルで試合のペースをわたさず18対32で試合終了となった。

得点：山野5点、上町4点、東濱3点、石立2点、
高橋、若松、飯田、永田1点

■男子

平成23年4月24日（日）15：30～

日本代表男子　24（10-18、14-12）30　韓国代表男子

立ち上がり、GK甲斐が韓国の7mTを阻止し会場を盛り上げる。OFでは門山、宮崎、森の得点で6分で3対4。リズムをつかみたい日本だがミスからの失点が重なり3対9とリードを広げられてしまう。14分、野村のポストシュートが決まるが再び連続失点で4対11。17分過ぎからDFで永島を投入すると流れが変わり、門山・小澤と連続得点で6対11。GK志水も好セーブを見せ5点差をキープする。しかし残り2分、またもミスから連続速攻を許し前半を10対18で折り返す。

後半1分、日本に退場者が出てしまい劣勢のなか、後半から出場した末松が得点し11対17。5分には武田のパスカットから小澤が速攻を決めるなど連続速攻で15対19。さらに11分過ぎにはGK志水の好セーブから末松・門山らの得点で18対21と3点差まで詰め寄る。その後、末松・豊田・永島らの得点で追いつこうとするが、要所での連続失点が響き、24対30で試合終了。

得点：末松6点、豊田、門山4点、小澤、宮崎、森2点、
高智、永島、野村、谷村1点

第8回 東アジアハンドボールクラブ選手権

第８回東アジアハンドボールクラブ選手権は、４月９日（土）から12日（火）の日程で中国・山東省栄成市で開催された。３月11日に起こった東北地方太平洋沖地震から間もない中、本大会に日本からは湧永製薬と北國銀行が出場した。「がんばろう日本！！共に進みましょう」というメッセージが大きく書かれた横断幕を掲げ、試合に挑んだ両チームの闘いは、中国・韓国をはじめとする東アジアの国々に日本復活の力強いメッセージを伝えるものであった。大会結果は、湧永製薬が３位、北國銀行が２位であった。

試合結果

【男子】

湧永製薬　30（13 － 15, 17 － 11）26　山東（中国）
斗山（韓国）　30（16 － 12, 14 － 12）24　湧永製薬
江蘇（中国）　28（16 － 15, 12 － 11）26　湧永製薬
［最終順位］　①斗山（韓国）②江蘇（中国）③湧永製薬（日本）④山東（中国）

【女子】

北國銀行　36（17 － 11, 19 － 6）17　山東（中国）
仁川市体育会（韓国）　30（14 － 15, 16 － 14）29　北國銀行
北國銀行　45（21 － 10, 24 － 10）20　広東（中国）
［最終順位］　①仁川市体育会（韓国）②北國銀行（日本）③広東（中国）④山東（中国）

〈個人表彰（日本選手）〉
ベストセブン：男子：新 建二、谷村遼太
　　　　　　　女子：上町史織、八十島智美、田代ひろみ
ベストレフェリー賞：冨田拓



男子：湧永製薬

東アジアクラブ選手権を終えて

湧永製薬コーチ　古家 雅之

はじめに、３月11日に発生しました東北地方太平洋沖地震と津波により被災された皆様に、心よりお見舞い申しあげます。

３月12日・13日で開催される予定であった日本リーグプレーオフが中止となり、日本リーグ２位という立場ながら４月９日から中国で開催された東アジアクラブ選手権に出場してきました。

大会前の準備段階では、このような大変な時期にハンドボールをしていて良いのかという迷いや、日本リーグで優勝で



きなかった中での参加となることに対する戸惑いがありました。しかし、大震災により日本が大変な状況に置かれている中でハンドボールが出来ることの意味を考え、復興に向けて自分たちが出来る日々の活動を止めてはならない、また何とか元気が出るようなニュースを届けたいという思いで大会に臨みました。

初日の山東（中国）との試合では、前半から大型選手のフィジカルを活かして強引に押し込んでくる攻めに苦労したものの、後半は持ち味であるDFが機能し始めたためFBへの展開が増え、最終的には4点差で逆転勝ちすることが出来ました。

第2戦では多くの代表選手が顔を揃える斗山（韓国）との試合でした。スタートからどちらのチームも持ち味を出した良いゲームとなりましたが、前半の途中からシュートミスが続いてしまい4点のビハインドで折り返しました。後半は両チーム一歩も引かない戦いで1～2点差のまま進んでいましたが、勝負所でユン・キョン・シン選手に叩き込まれ、最終的には6点差で敗れてしまいました。

最終日の江蘇（中国）との試合では、相手エースに連続で叩き込まれ追いかける展開となり、何とか追いついたものの要所でのミスが響き2点差で敗れてしまいました。

大会を通じては韓国のアタックDFを攻略できたことや、DFとそこからのFBに手応えを感じることが出来ました。しかしながら、国内では経験できないフィジカルに対応しきれなかったこと、変則的な動きをするGKに多くのシュートを阻まれたこと等、たくさんの課題を得ることが出来ました。この経験を次に活かすために選手一同これからのトレーニングに励みたいと思います。

最後になりましたが、今大会の派遣にご尽力いただきました協会関係者の方々、現地でお世話になった多くの方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

女子：北國銀行

東アジアクラブ選手権に出場して

北國銀行ハンドボール部監督　荷川取 義浩

まず、この度の東日本大震災の犠牲者の方々に深く弔意を表し、被災者の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。また、1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

第35回日本リーグプレーオフは、未曾有の東日本大震災の影響で中止となり、レギュラーシーズンの結果をもって順位が決定、悲願の初優勝となりました。

優勝したことにより、東アジアクラブ選手権への出場権を得ましたが、東日本大震災を考慮し欠場も止む得ない状況の中、会社のご理解とバックアップを頂き、2年連続2回目の出場となりました。

出場するからには、日本代表として最高の結果を出し、被災地の皆様をはじめ、日本全国に明るいニュースを提供できるよう優勝を目指し、チーム一丸となり、大会に臨みました。

開催場所は、中国　山東省　栄成市（ロンチョン）。

初戦は、中国　地元山東省チーム。16名登録中、9名が180㎝オーバー、6名が170㎝オーバー、166㎝が最小という、大型チームとの対戦。

序盤は、大きさに圧倒された形で、リズムに乗れずにいましたが、中盤以降から持ち味を発揮して、36対17で初戦を勝利しました。

第2戦目は、昨年に敗れた韓国1位の仁川体育協会（前・碧山建設）。前回の借りを返すべく臨んだ。序盤はリードを許すも徐々にペースを掴み、前半終了間際に若松が決めて、15対14と1点リードで終える。後半は先行されたが、速



攻等で追い詰め、終盤は1点を争う好ゲームを展開。粘り強く戦ったが、29対30で敗れる。

最終戦は、中国・広東省チーム。山東省よりは大型でないが、やはり大型チーム。3戦目ということもあり、序盤から速い展開に持ち込み、前半を21対10とリードして終える。後半は、若手も投入して全員で走る北國らしい内容で、リードを更に広げる。止めは、井上がいぶし銀のプレーで45点目を決めて、タイムアップ。45対20で終了。2勝1敗の2位で終了。

日本代表で出場させて頂きながら、優勝報告が出来なかった事を大変申し訳なく思います。苦しいシーズンではありましたが、日本人だけの小さな選手の多いチームで戦い、最後まで諦めない姿勢を貫けた事が大きな収穫となったと思います。

最後になりましたが、出場にするにあたり、ご尽力を頂きました東アジアクラブ選手権事務局並びに日本ハンドボールリーグ機構、そして、強力なバックアップをして頂いたサポーター・地元協会の皆様、深山会長・安宅頭取をはじめとする銀行関係者の皆様方に心より感謝申し上げますと共に、更なる高みを目指して精進する事をお誓い申し上げます。

東アジアクラブ選手権を終えて

北國銀行ハンドボール部　**田代ひろみ**

4月9日～12日に中国で東アジアクラブ選手権が開催されました。

出場チームは、開催地である中国から山東と広東の2チーム、韓国から仁川市体育会、そして日本から北國銀行の4チームです。

東北地方太平洋沖地震が起き、出場していいのかどうか正直不安もありました。しかし、スポーツ選手である私達が今やるべき事、出来る事はやっぱり、ハンドボールを通して笑顔や元気を日本に届ける事じゃないかと思い、チーム全員が優勝して帰ろうと臨んだ大会でした。

大会初日オープニングゲーム前に両チームのスタッフ、選手、会場にいる全員で、東北地方太平洋沖地震、津波により犠牲になられた方達に黙祷を捧げ、山東と対戦しました。

立ち上がり相手の大きさ、パワーに戸惑ってしまい、自分達の本来の動きが出来ず、リズムを掴むのに少し時間がかかりましたが、前半の中盤から北國らしいDF、足を使ったアグレッシブなDFから速攻でリードを奪い、最終的に19点差で勝利する事が出来ました。

第2試合目は、去年の東アジアでも対戦した韓国の仁川との試合でした。立ち上がりは韓国ペースでリードを奪われたものの、中盤に追い付き、終盤得意のDFから速攻で1点リードで折り返しました。後半の勝負所で連続失点をしてしまい、北國も意地を見せ終盤に1点差まで詰め寄りましたが時間が足りず、1点差で敗れてしまいました。去年と違って互角に戦えただけにとても悔しい敗戦となりました。

気持ちを切り替えて臨んだ最終戦は、前の試合の鬱憤を晴らすかのようにスタートから粘り強くアグレッシブなDFから速攻で得点する事が出来、後半に入っても途切れる事なく終始自分達のハンドボールをやり通す事が出来ました。それでもゲームの流れをよみ、時間帯や点差を考えたPLAYの選択が出来なかったり、やってはいけないミスをしてしまったりしたので、この反省を次に生かし、個人として、チームとして、日本人としてレベルアップしなければいけないと思います。

最後に今大会の出場で大変お世話になりました、東アジアクラブ選手権事務局の皆様並びに日本ハンドボールリーグ事務局の皆様に心より感謝申し上げます。本当に、ありがとうございました。

東日本大震災 被災地からの報告

岩手県　岩手県ハンドボール協会理事長　岡市　武

はじめに、3月11日の東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げ、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

岩手県では、大震災から2ヶ月以上経ちましたが、死者4,500名、行方不明者2,900名、家屋倒壊数19,768棟、避難所生活者が多い状況です。

特に沿岸地域は甚大な被害を受け、市や町が壊滅的な状態で、多くの家屋等が津波に流され瓦礫の山となっています。現在でも学校体育館が避難所になっており、未だにライフラインが復旧していない地域が多くあります。最近では瓦礫の撤去とともに復興に向け努力している方々の記事が多く目に付くようになりました。

沿岸部にある釜石高校ハンドボール部では、家を流された部員、親の職場が被災した部員がおります。一関高専、富士大学、岩手医大にも実家が被災した学生がおります。内陸の被害は少なかったのですが、2・3日間の停電、断水、JR不通、高速道路閉鎖による物流の停滞、ガソリン不足等で通常の生活ができるまでかなりの時間を要しました。

全国選抜大会を開催する予定であった花巻市に於いてもメイン会場の花巻市総合体育館の浄化槽が破損し、宿泊予定の花巻温泉は被災者、復興関係者を受け入れなければならず、開催は困難な状況でした。大会参加予定の選手、監督、関係者には誠に残念な思いをしたことと思います。

7月の北東北インターハイは、ヨットが秋田県での開催に変更される他、予定通り行うことで、鋭意準備に励んでおります。このような状況の中、7月に完成予定でありました新体育館も完成が遅れるなど、充分なおもてなしはできないかもしれませんが、そのぶん真心と復興に向けた熱い気持ちを表す強いメッセージを打ち出す大会にしたいと思います。

また11月には、インカレも開催されます。現段階では、それまでに新体育館が完成されているか予測不能です。このような中、被災県である本県に7月、11月そして年明け3月と3度の全国大会を開催することは、かなりの困難も待ち受けていると思いますが、各上位団体のご指導ご支援をいただきながら思い出に残る、そしてチャンピオンシップを決めるにふさわしい大会となるよう当協会一丸となって取り組む所存であります。

さらに、2016年国体の開催については、今県内でも喧々諤々の議論がなされているところです。当協会といたしましては「復興国体」と位置づけ、県民に勇気と明るい将来の展望を持てるような大会として開催したいと思っております。そのためにも日本体育協会をはじめ、日本ハンドボール協会のご指導ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

最後になりましたが、多くの方々からたくさんの義援金、救援物資、励ましのメッセージを頂きまして心より感謝申し上げます。

義援金及び物資を寄せて頂いた皆様へ

この度は、多大なる支援、ありがとうございました。三月十一日の東日本大地震で私たちの町も大きな被害を受けました。沿岸地区ということで、今まで何度も津波について学び、避難訓練も重ねてきましたが、あまりの被害の大きさに自分たちの無力さを痛感している次第です。

そして私たちのハンドボール部も体育館が避難場所となり、使用出来なかったり、今まで通りの練習を満足にできない日々が続きました。部員の中でも家や職場や車を失ったり、被災した人もいます。そのような中で両面テープやテーピングをはじめとし、様々な支援をいただきました。

皆様の温かい心のおかげで、私たちは今、再び活動することが出来ています。そして、内陸の高校との合同練習も参加することが出来ました。本当にありがとうございます。皆様からお寄せいただいた義援金のおかげでこのような充実した活動が出来ることを大変嬉しく思います。この度の被災で私たち三年生は、高総体を目前とした今、もう練習が出来ないと思っていました。しかし、完璧元通りではありませんが、ハンドボールが出来ていることを嬉しく思っています。皆様の支援があるからこそ、ハンドボールが出来ていることを忘れません。これからも様々な困難があると思いますが、この被災で築いた絆を胸に頑張っていきたいと思います。

平成二十三年五月二十二日

釜石高校ハンドボール部一同

宮城県

宮城県ハンドボール協会事務局長　渡邉　泰

3月11日、突然の長く激しい揺れで、ライフラインがすべて遮断されてしまいました。幸いにも仙台市内中心部に勤務していたため、最大の被害をもたらした津波の被害を受けることもなく、まして大惨事が起こっていることなど予想もできませんでした。数日で電力が復旧し、テレビのニュースを見て沿岸部の惨事を知り、携帯電話で沿岸部の知人の安否確認をしても、通信網が破壊されたため否通知の答えが返ってくるばかりでした。

仙台市内の情報ばかりで強縮ですが、市内の水道・ガスの完全復旧は1ヶ月を要し、公共交通機関も寸断され、ガソリン不足により自動車の利用もできず、自転車や徒歩での通勤が多くみられました。学校は4月上旬まで登校を控えさせ、高校の部活動も4月6日以降に解禁になった学校がほとんどでした。食料がスーパー、コンビニで普段通りに買えるようになるまでは1ヶ月以上かかりました。その間、わずかでも商品の入荷のあった市場、小売店、小型スーパーへの買い出しや、給水車での配給のために行列を作ることは誰もが当たり前の事でした。とりあえず生きるための日々を暮らす1ヶ月は大変でした。

ライフラインの復旧とともに、ほとんどの高校が4月20日以降に始業式、入学式を迎え、やっと情報が得られるようになりました。

宮城県ハンドボール協会関連の被災状況です。幸いにも犠牲者は出ませんでした。

中学校での被害は、仙台市立高砂中学校が津波で体育館まで冠水し、ハンドボール用具が流出し練習ができない状況です。部員男女37名の内、12名の自宅が全壊もしくは半壊で住めない状況です。教員は通勤用の自家用車が学校で冠水し使用不能となりました。その他の中学校は大きな被害はなかったようです。

高校41チーム（1079名）の内、家屋全壊の生徒が6名、家屋流出の生徒は10名、一部損壊の生徒が19名、床上浸水7名、床下浸水が1名です（5月10日現在）。

調査は行われていませんが、保護者の会社が流出したり津波の冠水で農業ができなくなったりし、収入の途絶えた家庭、近親者が津波で亡くなった生徒は多数おります。

大学、一般の状況は調査中ですが、自動車の冠水、床上浸水の報告が来ています。

協会役員関係では、高橋長偉前会長、今野正志前副会長はともに家屋流出、石山英治郎理事は二階まで浸水、荒井啓貴中学校教諭も自宅が二階まで浸水し使用不能との報告を受けています。

県内の体育館では使用できるのは2館だけで、避難所、遺体安置所として利用、もしくは損傷のため使用不能で、7月中に利用できる体育館はまだありません。このため、予定されていた宮城県春季ハンドボール選手権大会（一般、高校、中学校）春季クラブリーグが中止になりました。今年度、宮城県開催予定の東北総合体育大会（国体ブロック大会）も開催の目途が立たないために、秋田県に会場変更のお願いをしております。高校総体は仙台市内の3校の体育館を会場に開催される事になりました。それ以降の大会については、体育館の使用開始状況を見ながら、開催の有無を検討することとなりました。

東日本大震災から2ヶ月が過ぎ、宮城県もようやく復興の兆しが見えてきました。沿岸部ではまだまだ手のつけようもない状況ですが、仙台市内は日ごとに日常が戻ってきました。これも全国から駆けつけていただいた、陸上自衛隊、警察官の皆さん、ガス、水道、電気の災害復旧隊、各県の自治体や病院からの応援隊、それにボランティアで駆けつけてくださった皆さんのおかげです。下を見れば涙がこぼれそうな厳しい状況でしたが、全国の皆さんの暖かい支援のおかげで何とか希望が見えてきました。生徒もハンドボールの練習の傍ら、支援物資の仕分けや搬入を手伝い、物資をトラックに詰め込みました。立ち上がれたものが別の人を助けてあげる、そんなすなおな気持ちが生徒の中にも自然にわいて、快く作業を引き受けてくれました。

亡くなられた方々の冥福を心よりお祈りするとともに、支援をいただきました皆様に心より感謝申し上げます。





写真は支援物資の搬入を手伝う、仙台南高校ハンドボール部員です。津波で一切を失った東松島地区の小中学校へ、支援のために送られたランドセルやノートなどの学用品をつめこんでいます。

福島県

福島県ハンドボール協会事務局広報担当　飯塚 敏章

この度の東日本大震災により被害を受けられた皆さまに、心からお見舞い申し上げます。

また、本県に対しまして、全国から数多くの救援物資やボランティア・励ましの言葉をいただき、心から感謝申し上げます。

自然溢れる福島県は全国で３番目に広い県土で、およそ202万人が生活しています。地区でいえば、野口英世・白虎隊・鶴ヶ城で有名な『会津』、東北新幹線が縦断する『中通り』そして相馬野馬追やスパリゾートハワイアンズがある『浜通り』に分類されます。

福島県でのハンドボールといえば、昭和53年のインターハイ、1995年のふくしま国体、2007年の全国中学生大会が開催されたことが記憶の新しいところ。そして、来年はJOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会が予定されていますし、1997年からは全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会が開催され続けております。

震災１か月後の４月、県内の中学・高校では新学期がスタートするはずでしたが、体育館が避難所になったり、校舎が余震に耐えられず使用禁止といった理由などで各地区の学校とも想定外の新学期だったようです。１学期は始まりましたが、私たち現場の教員も当初計画されていた学習内容を一部変更せざるを得なくなり、戸惑っているのが本音です。

また、部活動・クラブ活動面では原発事故による放射線漏れが大きく報道されている通り、練習場所であるグランドや体育館の使用が制限されていますし、子ども達の健康状態が最優先ということで練習時間も数時間限定など子ども達には大変不便をかけていることに心痛んでおります。

今年度の県行事でいえば、４月第４週に開催予定であった福島県春季ハンドボール選手権大会を中止に。５月第２週のインターハイ地区予選は福島市を中心とする県北、郡山市を中心とする県南は何とか開催することができましたが、地震・津波・放射能の影響を直に受けた『いわき』は地区大会を実施せずに県大会へ出場という流れになりました。

中学校では現在、地方自治体および各教育委員会と密に協議しあい大会開催に向けて準備しています。

現在、会場確保の困難や練習時間の制限といった不自由な活動を余儀なくされている中学生・高校生らに昨年と変わらず楽しくハンドボールができる環境を整えてあげること、そして選手の健全な心身の育成という大きな目標を達成するべく、協会として全力を挙げてこれからも取り組んでいきたいと考えております。

ここで、全国のハンドボールを愛する皆さまにお願いがございます。

震災前までは元気に県内で住んでいた被災者が現在全国各地に避難しています。地元を離れる寂しさを覚えつつ、新しい居住地で皆さまからの温かい支援もあり、笑顔を絶やさず生活しているようです。

しかし、一部の心ない人から『福島県は汚れている』とか『放射能が伝染するから来ないで』といった根拠のない差別をうけているという報告がありました。残念でならない…と悔しい思いですが、そういった風評被害で精神的にダメージを受けている人が大勢いることを分かってもらいたいです。





最後に…。本県出身で今年からトヨタ車体へ加入した笠原謙哉さん（信夫中→聖光学院高校→東海大学）とチームメイトの皆さんから温かいメッセージを頂きました。

新社会人となり、勤務や練習で忙しいところ故郷福島県を心配し行動していただいたことに胸を熱くした次第です。メッセージ入りの国旗は今年度開催される全ての大会で披露することが協会で決定しました。

微力ながら、復旧復興の励みにそしてハンドボールの普及・競技人口増加に寄与したいと考えております。

福島県ハンドボール協会　HPアドレス　http://www3.to/hb-fukushima
福島県ハンドボール協会　メールアドレス　hbfukushima@yahoo.co.jp

社団法人日本通信販売協会会員

さらに新しくなりました！

ドクター・水素水®
NEU PREMIUM

ノイ プレミアム新登場！





水道水を
水素豊富水に！

6カ月間
メンテナンス
不要

原材料は
1.5倍増量



スティックを
入れるだけで
水素水が出来る！

水素(H2)と有害な活性酸素の働き

体内の有害な活性酸素の蓄積は、環境、タバコ、酒、ストレス、紫外線などが原因の一つであると言われています。水素(H_2)はこの有害な活性酸素と反応し、水(H_2O)になり、お体を健康へと導いてくれます。
1日1.5ℓ～2.0ℓの水素水を何回かに分けて飲用する事が大事なポイントです。

特にこんな方におすすめ！

- 健康を維持したい方
- 激しい運動をする方
- 体調管理が必要な方
- ストレスのある方

※本製品は商品改良のため予告なく変更する場合があります。

www.dr-suisosui.com

株式会社 FDR・フレンディア
〒150-0041 東京都渋谷区神南1-9-2 大畠ビル 5F 502号
Tel:03-5728-0132 Fax:03-5728-0138

フリーダイヤル 0120-372-132（みんなに いーみず）

水素についてもっと詳しくお知りになりたい方は下記のサイトをご覧下さい。
各大学機関が各学会誌に論文を発表しております。
http://suisosui.org/

ヨーロッパのハンドボールLIFE

海外挑戦から5年経って

SVG Celle
田中麻美

今から8年前のクロアチアでの世界選手権の後、自分の限界を試してみたいと思ったことから「海外チームでのハンドボール」を初めて意識しました。

そして今、ドイツでの生活が6年目に入ることには自分自身が一番驚いています。今の自分自身があるのは本当に周りの人に恵まれ、支えられたからであり、それなしには今の自分はありえないと思っています。

期待されたアテネ予選での不甲斐ない結果で目標だったオリンピックへの夢が壊れたときは、自分の限界が見えたような気がして、練習にも身が入らないで引退も考えたこともありました。ただその後の世界選手権で、ナショナル選手として召集を受け、北國銀行からも派遣を許可してもらい、海外のチームと試合できるチャンスを頂けたことが、今思えば大きなきっかけになったのかと思います。とにかく環境を変えて、新しいことに挑戦することで今までの自分を変えたい、それで駄目ならハンドボールを辞めようと割り切ることができました。ただ、目標は定まったものの、海外でプレーするのはどうしたらいいのか、誰に相談すればいいのかさえわからないで時間だけが過ぎていきました。

転機になったのは、当時ナショナル選手で一緒に戦った山田永子さんの協力で自分のプレーを編集したDVDと履歴書を海外のチームへ送ってもらって返事の来たチームがいくつかあったということです。その後なんとか移籍するチームが決まったものの、なかなか連絡がなくて日本で連絡を待つだけという期間があったときは本当に苦しくて「こんな挑戦自体が無理だったのか」「安直な考えだったのか」「私なんかが…」と弱気になることもありましたし、選手登録もしないで仕事と練習する環境を与えてくださっていた北國銀行には申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

移籍を決めたチームはドイツのチームだったのですが、結局、テストをするからドイツに来てほしいということで、はじめの話からずいぶん時間はたっていたものの、急遽2週間ほどの日程でドイツに渡ることが決まりました。このとき、とにかくがんばって来いと送り出してくださった北國のスタッフ、北國銀行の行員の方々、上層部の方々には、どんなに感謝をしても足りないぐらいです。

テストに行った現地では、英語ももちろんドイツ語も話せなかったのですが、これが最後のチャンスだと思って、とにかく「自分を見せる」ことに無我夢中でした。途中から山田永子さんも合流してくれて、通訳をしてくれたり、相談にのってくれたりと何から何まで助けてくれて、彼女がいなかったらきっとチャンスすら手に入れられなかっただろうなと思います。

結局、テストに行ったドイツのチーム(Frisch auf Goeppingen)のマネージャーから約4ヶ月後に連絡があって契約したいし、大事な試合があるので来季の為にも観戦にぜひ来てほしいと連絡がきました。当時、Goeppingen(ギョッピンゲン)はドイツ南部2部リーグの3位で、マネージャーのいう大事な試合とは1部リーグ昇格をかけての南部1位のチームとのプレーオフ最終戦、勝てば昇格、負ければ2部残留という大一番でした。そしてチームは私の目の前で勝利し、昇格を決め、2部リーグのチームと契約するつもりが、ラッキーなことにブンデスリーグ1部のチームと契約することができたのです。

残念ながらFrisch Auf Goeppingenは1年で降格してしまいましたが、私は同じ1部のBuxtehuder SVに移籍が決まって、また1部リーグで戦うチャンスをもらいました。ただ、Buxtehude(ブックスデフーデ)では膝を怪我して約1年休養し、その後出場チャンスに恵まれずに2年で今のチームのHSG Bensheim/Auerbach(ベンツハイム/アウワーバッハ)



HSG Bensheim/Auerbachに入った2009/2010シーズンのチーム写真

に移籍をすることになりました。

HSG Bensheim/Auerbach（２部）ではプロ選手は認められていないので、簡単な仕事をしながらハンドボールをしていますし、ハンドボールをしていればいいという環境ではないことを考えると、もしかしたら選手としてはプラスではないのかもしれません。それでも、仕事をすることで色々な状況に遭遇できたり、色々な人との出会いがあったり、知らなかったことがわかったりと悪いことばかりではなく、私にとっては人生勉強のひとつであるように思っています。

なによりも、私はこの環境でハンドボールがしたいと望んで、それができていることに幸せを感じていますし、このチームでアピールできたことで来季からは２年前から目標にしていたブンデスリーグ１部に昇格する SVG Celle（ツェレ）への移籍が決まりました。


Quelle: "Cellesche Zeitung" vom 17. Mai 2011, Seite 19

Aus der aufgehenden Sonne ins Tor

Mami Tanaka wechselt von Bensheim zum Handball-Erstligisten SVG Celle

Im Land der aufgehenden Sonne lernte sie das Handballspielen, seit fünf Jahren ist sie in Deutschland. Und ab der kommenden Saison steht Mami Tanaka bei den Handball-Damen von SVG Celle zwischen den Pfosten. Die 33-jährige Japanerin kommt aus Bensheim an die Aller. Ihr erklärtes Ziel ist der Klassenerhalt in der 1. Bundesliga.

SVG Celle への移籍を伝える新聞記事

ドイツで生活してから感じたことですが、海外でハンドボールをするということは、「ハンドボール」だけでなく「生活」していくということも大事なのだと思います。日本とドイツの違いは挙げたらキリがないぐらいありますが、もちろん国が違うのですから国民性や文化の違いは顕著です。

ハンドボールはチームスポーツであり選手間でのコミュニケーションは絶対ですし、言葉を学ぶことは絶対条件です（ドイツでは英語よりもドイツ語を話すほうが喜ばれます）。それは生活していく中でももちろん必要で、毎日の生活や思いがけなく病気や怪我をしたときに、語学力のない私は本当に辛い思いをしました。

また、ブンデスリーグ女子の場合は１部であっても２部であっても、とにかくドイツ国内をバスで移動します。日本と違って陸続きなこともありますが、どんなに遠くても試合の日にバスで移動して試合後にはバスで帰ってくるというのが普通です。チームの位置によっては、10 時間移動して約１時間試合して、また 10 時間かけて家に帰るというような、私が日本リーグでやっていたときには信じられないようなことも当然のようにあります。そういう意味では、日本に比べて選手はずいぶんタフなのかなとも感じます。


今シーズン最終戦となった DHB Pokal の Final4 での試合中

そのほかは、選手のアピールの仕方や、試合に対する集中力、自主性など…色々ありますが何よりも大きな違いは、チーム数が桁違いに多く、ハンドボールが国内でもメジャーなスポーツだということかもしれません。

女子に関しては１部で 12 チーム、２部では南北それぞれ 12 チームずつ、３部では東西南北で 14 チームずつ、その下には４部、５部…と続いていきます。ブンデスリーグといわれるのは女子では２部までですが、ブンデスリーグ女子は 36 チームあるということになります。

現在に至るまで、Frisch Auf Goeppingen（１部）→ Buxtehuder SV（２部）→ HSG Bensheim/Auerbach（南部２部）と移籍を繰り返して、来季は SVG Celle（１部）でプレーすることが決まっていますが、この５年、私にとっては本当に内容の濃い、良い意味でも悪い意味でも日本では味わえなかった経験ばかりです。

初めてドイツに来て、全く言葉がわからず手探りでの毎日から、移籍したチームで 30 歳の時に選手生活ではじめての大怪我である右足前十字靭帯断裂・手術を経たことで、自分の思い描いていた理想とは離れてしまったように思い帰国・引退も考えましたが、周りの協力で新しいチームを見つけて、また今ハンドボールの楽しさを知ることができました。

当初の目標だったナショナル選手として結果を残すということに関しては、何ひとつ達成できてはいませんが、５年間で自分自身に課した小さな目標を一つずつ克服している実感はあるので充実はしています。

私にとっての大きな目標は２つありますが、まずはハンドボールを楽しむことと大きな怪我をしないことを第一に、目の前にある自分の課題・小さな目標を克服していけるように努力し続けることが自分の人生を豊かにするだろうし、大きな目標達成に繋がっていくと信じています。

これからは、海外へ出て行きたいという選手も増えてくるかと思いますが、何度も迷ったり、思い通りにいかなかったり、くじけたりすることがあっても諦めないで一歩ずつであっても進んでいってほしいと思います。

～球史振り返り新たな歩み～

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

新年度がスタートを切った４月１日。日本ハンドボール協会のホームページに画期的な電子ファイルが加わった。

「機関誌バックナンバー」である。

1938年２月２日に設立された日本協会。苦難と栄光の歴史を重ね合わせながら、2013年に75歳の誕生日を迎える。日本陸連から独立し新たな歩みを始めた23年後の1960年６月１日、機関誌「ハンドボール」は発刊された。

以来、月日を刻みながら2009年５月、記念すべき500号に到達した。それを契機にホームページにバックナンバーを掲載する電子ファイル化が進み、今年４月、日の目を見ることになった。

記念すべき第１号の巻頭言、日本協会の式場隆三郎会長は次のようなメッセージを載せている。

「高遠なる理想の礎石たれ」

機関誌発刊を待ち望んでいた胸の鼓動が伝わって来るような文章がしたためられている。

ページをめくると、全日本総合選手権の詳細な記録などがある。また「地方だより」と銘打ったコーナーがあり、各地域の情勢をブロック別に書き分けているのも特色のひとつとしての印象を受ける。

最初は不定期的で、年３、４回の発刊だったが、65年あたりから現在に近い年間10～11回、定期的に発行されるようになった。ご存じのように昨年から年９回（１・２月号、３・４月号、６・７月号が合併号）になっているが、よくも続いてきたものと思う。編集委員会の努力のほかはない。

皆さんも一度、ＨＰでページをめくり、当時から現在までの球界の流れ、動きなどを振り返ってみられてはいかがでしょうか。喜びあり、悲しみあり…多くの難関や苦難を乗り越えて、ここまで発展の歩みを続けてきた先人の皆さんたちのご苦労がしのばれるはずである。

最近の社会はインターネットに任せようとの動きも聞かれるが、各スポーツ団体がこうした機関誌の発行も合わせ重要視していることも忘れてはなるまい。新しいものとの共存で球界の発展を図っていこうとの姿勢だろう。

今、日本ハンドボール協会では、75周年記念誌発刊への準備が進められている。50周年、60周年記念誌に続く難事業であるが、編集委員の皆さんの努力があってこその賜物であることは間違いない。

機関誌のバックナンバー、日本協会創立記念誌などに記された球史をめくり、過去の事象を丹念に振り返り、現在を次世代につなぐ新たな歩みのパワーにしていきたいものである。

XXXIII IHF Ordinary Congress

IHF通常総会報告



1．開催日程　2011年5月3日〜4日

2．開催場所　モロッコ　マラケシュ

3．出席者　渡邉会長（IHF理事）
市原副会長、蒲生国際担当常務理事
ネメシュ・ローランド通訳

4．IHF総会・AHF会議の日程ならびに内容

・5月2日出国
・5月3日未明マラケシュ到着
・同日9：00受付　IDカード、資料など受け取る。

■ **AHF会議　10：00〜11：00**

・渡邉第1副会長挨拶
・THEYAB氏からアジアは、hand in hand 意見を統一して総会に参加して欲しい。
・今回も、電子投票で行われるとの報告がされた。



・2013年：IHF総会開催地には、AHFとしてカタールに投票して欲しい。
・2011年女子アジアユース選手権は、様々な状況からヨルダンをキャンセルした。開催したい国は、手を挙げて欲しい。
・日本から「もし、開催国が出てこないならば日本が開催しても良い！」と提案。
・AHFからは、日本開催は全く問題がないと回答があった。
※東日本大震災の影響やその風評被害により多くの国際大会がキャンセルされる中、日本経済界やスポーツ界への貢献のため敢えて手を挙げた（参加国は少なく経費も最小で抑えられると考える）
・今後予定される世界選手権の中で、アジアで開催が決まっているのは、2015年にカタールで行われる男子世界選手権のみである。各カテゴリーの世界選手権の開催について、開催の意向を各国で検討して欲しい旨、AHFよりあった。
・AHFシェイクアーマド会長が多忙のために、総会・理事会などに出席できていない。従って、代理としてTHEYAB氏が出ることを提案したいとの発言有り。

● **AHFの安定路線**

・シェイクアーマド会長体制からBadel Theyab（アジア代表副会長代理）体制への変更を定款の中に入れることを狙ったが、IHF総会時には、混乱を避けるためにAHF側から動議を取り下げた。

■ **IHF総会　15：00〜5月4日17：00**

・会長挨拶、開催国挨拶
・2009年〜2011年までの報告
・IHF定款を改訂し決定すると言う事は、大陸連盟ならびに各国連盟はこれに従うと言う事であり、IHF定款に沿って改訂しなければならない。
・ステイクホルダーの考え方について、異議があったために、3ヵ月後までに現行法に照らし合わせて、文言を見直す。
・国籍変更について、1回の変更が可能である。
・国際移籍について、移籍費用などの条件等を改訂した。また今後はデータベースを構築する予定である。
・カテゴリーの世界選手権開催国は、投票で決定した。
　女子ユース世界選手権　　2012年モンテネグロ
　男子ジュニア世界選手権　2013年ボスニア／ヘルツェゴビナ
　女子ジュニア世界選手権　2014年クロアチア
　女子ユース世界選手権　　2014年マケドニア

5．総会の現状と考察

● 2009年〜2011年の報告　ムスタファ体制強固の印象

・加盟国数増加→180カ国（14カ国増）
・収入実績増加→マーケティング収入増加
・観客数増加
・TV放映国数増加



・インターネットアクセス件数増加
など全ての案件が増加している事を強調していた。
・組織と幹部役員のプロ化と権限集中を促進している。

●**総会の運営などについて**

・今回も、電子投票が行われた。しかし、テクニカルなミスと進行方法のまずさが相俟って、当初から混乱した。
・また、動議についてページ毎に進められることが電子投票で決定した。しかしながら、あまりのスピードから様々な意見や苦情が出された。その度に、ムスタファ会長が声を荒げて激怒する姿勢が目に付いた。
・IHF側は、2ヶ月前に会議資料を送っていることを主張しながら、ページ毎の進行は電子投票で決定したことであるため、議事を戻ることはしないと強く突き放した。
・ほとんどの動議は、1月26日27日の理事会で承認されていて、意見を述べる国は、ノルウェー・スウェーデン・ベルギー・オランダ・スイスなど、旧体制の中心的な北中欧国であった。アフリカとアジアそして南ヨーロッパにアメリカ大陸が強国に協力していて、現体制vs北中欧になっていた。議事途中にスイスが退席しようとしたため、ムスタファ会長が何とか退席をとどまるように要請した場面があった。その都度、ムスタファ会長が、「民主的に！民主的に！」と何度も繰り返すが、そのようには感じられなかった。
・いずれも、総会チェアマンとしての立場や、その姿勢に対する抗議であって、フェアな運営とは思われなかった。

● **IHFの今後の方向性**

・ハンドボールの商業化・プロ化の充実
・ハンドボール競技のスピード化とエンターテイメント性追求
・スクールハンドボールの開拓指導
・ビーチハンドボールの発展とその支援

JHAとしても、この流れに遅れないように事業を展開する必要がある。

2011年度 全国大会レフェリー 名簿

（平成 23 年 5 月 1 日現在）

大会	開催地	期日	審判員氏名	開催地
社会人選手権 （8 ペア）	北海道 函館市	7 月 13 日 ～ 7 月 17 日	◎吉田敏明　〇山口　工　多田和生・中舘　豊（トップ）　黒木龍二・黒木秀吾（トップ） 福田　弘・冨田　拓（トップ）　本田昭太・田渕元雄（トップ）　島尻真理子・太田智子（トップ） 萩原　亨・小松　大（秋田）　齋藤　崇・市丸成彦（岩手）　高橋容平・磯部尚志（北海道）	北海道 函館市 （8）
全国小学生大会 （4 ペア）	京都府 京田辺市	7 月 29 日 ～ 7 月 31 日	◎　〇国府　勝　服部博幸・中沢　徹（長野）　船津克弘・松尾統央（愛知） 福永賢一・前田隆志（奈良）　園　充利・大場義隆（京都）	京都府 京田辺市 （4）
全国高校総体 （24 ペア）	岩手県 花巻市	7 月 29 日 ～ 8 月 3 日	◎大橋幹正　〇　多田和生・中舘　豊（トップ）　亀山耕司・水谷省一（北海道） 今野秀樹・浅井宏信（北海道）　荒尾祐治・桜庭正明（青森）　西山健臣・木村篤史（宮城） 萩原　亨・小松　大（秋田）　小澤邦紀・越智康裕（福島）　安孫子功・柏崎博之（山形） 塚本　光・青山朋弘（東京）　堀江成典・梶原敏幸（東京）　相坂賢将・野平健二郎（埼玉） 四元俊一・野中　毅（栃木）　平塚亮介・坂本晴昭（山梨）　川江俊樹・徳光明博（石川） 手塚　勝・西田豊三（福井）　油上　智・中村行志（静岡）　片山　聡・大岩広人（静岡） 桶家秀介・魚川友康（富山）　梅木信男・土松稔和（岐阜）　寺内啓之・細川泰輔（大阪） 竹安末央・浜田倫暢（鳥取）　市丸成彦・斎藤孝明（岩手）　岩角聖孝・上飯坂徹（岩手） 水内隆夫・高橋英士（新潟）	岩手県 花巻市 （24）
ジャパン オープン （12 ペア）	岐阜県 高山市 飛騨市	8 月 6 日 ～ 8 月 9 日	◎　〇楓　健児　〇加藤元規　池渕智一・檜崎　潔（トップ） 家永昌樹・福島亮一（トップ）　安田　寛・永春文義（トップ）　浦川寿生・石崎章弘（トップ） 船津克弘・松尾統央（愛知）　梅木信男・土松稔和（岐阜）　仲野和也・藤坂明雄（福井） 大石克哉・桜打佳浩（富山）　角　直樹・白川裕隆（山口）　大熨嘉彦・山本篤洋（岡山） 弘田睦仁・濱田哲雄（高知）　上杉洋一・宮崎和彦（大分）	岐阜県 高山市 飛騨市 （12）
全国中学校 （9 ペア）	京都府 京都市	8 月 17 日 ～ 8 月 20 日	◎齊藤仁宏　〇久保　博（広島）　本田昭太・田渕元雄（トップ）　佐々木皇介・安田　達（トップ） 島尻真理子・太田智子（トップ）　河合威廷・臼井　健（トップ）　徳前紀和・森　義久（富山） 足立智司・田中基明（愛知）　国澤　隆・指野　緑（岡山）　上村英司・小野　武（大分） 佐路清隆・佐藤　晃（京都）	京都府 京都市 （9）
国民体育大会 （18 ペア）	山口県 周南市	10 月 7 日 ～ 10 月 11 日	◎　〇大熨嘉彦　〇加藤　晃　安田寛・永春文義（トップ） 多田和生・中舘　豊（トップ）　福田　弘・冨田　拓（トップ）　黒木龍二・黒木秀吾（トップ） 佐々木皇介・安田　達（トップ）　荒尾祐治・桜庭正明（青森）　比留間康・北嶋　浩（トップ） 加藤元規・森　裕太（岐阜）　金坂英宣・談議所啓輔（石川）　佐々木昌弘・高原浩徳（大阪） 角　直樹・白川裕隆（山口）　野島祥之・石原秀和（岡山）　竹安末央・浜田倫暢（鳥取） 渡辺一昌・高木優明（香川）　蟻川武司・瀬良研一（愛媛）　亀井一寿・堀川智宏（大分） 金子慎吾・川上健一郎（長崎）　岡田雅央・水津研二（山口）	山口県 周南市 （18）
全日本学生 （3 ペア＋11）	岩手県 花巻市	11 月 2 日 ～ 11 月 6 日	◎佐野和夫　〇吉田正明　＊各ブロック連盟からの推薦を参考に再調整。 多田和生・中舘　豊（トップ）　福田　弘・冨田　拓（トップ）　田中　潤・河合　哲（香川）	岩手県 花巻市 （14）
全日本総合 （8 ペア）	神奈川県 横浜市	12 月 21 日 ～ 12 月 25 日	◎　〇　＊審判審査指導委員会より推薦。	神奈川県 横浜市 （8）
JOCカップ （14 ペア）	愛知県 名古屋市	12 月 24 日 ～ 12 月 28 日	◎齊藤仁宏　〇松原英司　河合威廷・臼井　健（トップ）　野島祥之・石原秀和（岡山） 村瀬清史・石垣正樹（北海道）　大澤　勝・佐々木歩（岩手）　金原理博・森　義久（富山） 柏　博聡・岡　裕之（石川）　秦　隆二・秦　伊織（石川）　坪井雅典・神谷眞次（愛知） 近藤和矢・吉田　健（京都）　岡村敏行・濱口雄飛（兵庫）　山本　淳・山本孝志（鳥取） 森實岳史・小笠原龍太（愛媛）　大橋祥弘・宮崎光一（高知）　近藤晋一・鶴田祐一郎（熊本）	愛知県 名古屋市 （14）
春の中学大会 （18 ペア）	富山県 氷見市	3 月 24 日 ～ 3 月 28 日	◎　〇岩上浩一郎　比留間康・北嶋　浩（トップ）　島尻真理子・太田智子（トップ） 中村勝彦・斉藤史洋（神奈川）　物部昌太郎・林田誓太郎（東京）　坪井雅典・神谷眞次（愛知） 深津美亜・栗田宝未（愛知）　渡邊輝昭・板垣貴幸（愛知）　加藤元規・森　裕太（岐阜） 秦　隆二・秦　伊織（石川）　小岩井浩明・上原一人（長野）　近藤　悟・吉田博紀（静岡） 貝沼圭吾・須原幸一（三重）　飯田一郎・早瀬　司（滋賀）　寺内啓之・細川泰輔（大阪） 新井友彦・中嶋　秀（兵庫）　吉田達明・藤原孝夫（岡山）　桶家秀介・魚川友康（富山） 土橋邦彦・清水啓佑（長野）	富山県 氷見市 18
全国高校選抜 （18 ペア）	岩手県 花巻市	3 月 25 日 ～ 3 月 30 日	◎大橋幹正〇　多田和生・中舘　豊（トップ）　黒木龍二・黒木秀吾（トップ） 高橋容平・磯部尚志（北海道）　篠原　理・小田健介（北海道）　萩原　亨・小松　大（秋田） 佐々木充宏・森　義則（秋田）　二瓶元嘉・本田　隆（福島）　野地敏雄・小俣宏之（福島） 西山健臣・木村篤史（宮城）　飯村裕志・中村純也（茨城）　塚本　光・青山朋弘（東京） 鈴木紀幸・高橋　智（埼玉）　柏　博聡・岡　裕之（石川）　水内隆夫・高橋英士（新潟） 梅木信男・土松稔和（岐阜）　片山　聡・大岩広人（静岡）　佐路清隆・佐藤　晃（京都） 川崎　尚・飯島浩太（山口）	岩手県 花巻市 18

平成23年度J.H.A.公認審判員B級審査会（西地区）に参加して

鹿児島県ハンドボール協会／薩摩川内市立東郷中学校　大井 幸乃

公認審判員Ｂ級審査会（西地区）は５月６日から８日の３日間、鹿児島県吉田文化体育センターにて九州一般ハンドボール選手権大会開催の中で実施されました。

今回の審査会は、九州各県、愛媛県や香川県から総勢17名の受験者が集まり、越田義昭審査指導委員長と藤井俊朗審査指導委員の担当のもとに行われました。

大会の初日にはまず審判会議が行われ、島村浩信九州ブロック審判長より今回の大会をレフェリングするにあたっての留意事項をうかがいました。会議の中で、罰則の基準、審判相互の役割、アドバンテージプレーの見極めなどが大切なテーマとして取り上げられ、実際の写真などを用いて分かり易く説明されました。会議の後に筆記試験が行われました。競技規則問題集やルールブックなどの内容を確認するうちに、様々な状況や場面に遭遇したときに咄嗟に判断して対処するには競技規則の理解が大切である、と改めて痛感しました。

大会２日目から実技試験が始まりました。まず、会場でのミーティングで実技審査についての注意事項が話されました。九州ブロックの競技レベルは、どの種別においても日本のトップクラスです。それゆえに実技試験で私達の課題が次々と露呈され、反省点も多かったのですが、お互いのレフェリングを観察して意見を交わすことができ、とても貴重な経験となりました。試合後には、今後の自分の課題について藤井委員より指導していただきました。第１に１試合を通じて判定基準の揺れを小さくし、瞬時に適切な判断を下せる能力を高めていくこと、次に「接触－違反ではない」ことを念頭に置いてコートに立つことなど、主に運営力・決定力についての指導でした。また、受験生や他の審判員の方々と共に、ふだん審判をしているときの様子や上級レフェリーの方に教えていただいたテクニックなどについて話ができました。それは私にとって大変参考になるもので、直ちに実践で使える内容もたくさんありました。

今回の審査会を通じて、私は今後のレフェリングとハンドボールの普及について、考えを改め直すことができました。ハンドボール指導者の一員として生徒へ教える立場でもあり、プレー技術は勿論のこと正しいルールを身につけさせたい、より高いレベルで活躍する選手を育成したいという願いがあります。選手一人一人の能力を高めるためにどのように指導していけばよいのか、その取り組みの一環として正しいジャッジングを私が学ぶべきであり、ルールの理解とレフェリング技術の研鑽に努めたいと考えます。

鹿児島県の競技レベルを上げるためには、良きレフェリーがいること、これも欠かすことはできないと思います。チーム力向上と共に上級審判員を目指すことは大変な努力を要すると思いますが、自分自身ができることを精一杯やりたいと感じることができました。そして、一人のレフェリーとして、今後周りの方々からの意見やご指導を賜わりながら資質向上を目指していきたいと考えています。

最後に、ご指導・審査いただいた先生方をはじめ、多くの先輩レフェリーの皆さま、そして共に受験した方々・選手の皆さんに、今回のこのような貴重な経験ができたことを心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。選手を活躍させて大会を成功させるには「大会役員と審判団が１つのチームという思いで臨むべきである」、という越田委員長の言葉を胸にこれからも精進していきたいと思います。

第9回ハンドボールコーチング研究会

研究会代表　田中　守（福岡大学）

この度の東日本大震災により被災され、お亡くなりになられた多くの方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、今なお大変な生活を強いられている多くの方々に心からお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復興をお祈り申し上げます。

【第9回研究会総括】

第9回研究会前日の3月11日に大震災が発生したことにより、今回の中止を決定しました。基調講演をお願いしました水上一先生（筑波大学名誉教授）には、心からお詫び申し上げます。ロンドンオリンピック予選の今年に相応しい「オリンピック出場に向けて」と題した講演を楽しみにしていた多くの方々にも、心からお詫び申し上げます。筑波大学監督として30年間に亘ってチームを率い、全日本インカレ11回の優勝、6回の準優勝は名将に相応しい堂々の実績です。さらに、女子日本代表チームコーチを7年、女子学生日本代表チーム監督を7年、その他日本協会強化部女子強化委員長やNTS委員長などのご功績も、今回の表題を語るに相応しい、楽しみな講演でしたので、次回改めてお願いしたいと考えています。

一般発表演題数も、例年10演題前後でしたが、今回は別表のように15演題を数え、非常に楽しみな発表会でした。とりわけ、前回の基調講演をしていただいた大西武三先生による「日本の進むべき方向性」の提案や、研究会顧問の平岡秀雄先生による「コーチング研究の課題」の提案は、本研究会のシンポジウムあるいは教育講演にも相当する内容でした。また、現男子日本代表チーム監督の酒巻清治先生による「第22回男子世界選手権報告」や村松誠先生による「世界の動向」は、水上一先生の基調講演にも関連するup to dateな話題で、強化の最前線で活躍されている方の研究発表という意味でも大変嬉しく興味をそそるものでした。それ以外にも、初心者の指導法、導入トレーニング法、シュート技術のさまざまな分析、コンビネーション戦術やチーム戦術分析、そしてゴールキーパーやレフェリーに関する研究など、非常に多岐に亘っている内容でした。

このようなことから、研究会顧問の平岡秀雄先生、事務局の栗山雅倫先生ともご相談し、今回の発表内容は今後のハンドボールコーチング発展のために意義深いものと判断し、発表会の中止ではなく日本協会ホームページ上でのWeb公開をもって発表に代えることを決定しました。もちろん、約1ヶ月間のメールによる質疑応答も設け、より良いものにしました。従って、次号から掲載されます内容は、質疑応答も含めて取りまとめた内容であることをお含み置き下さい。

【今後の展望】

次回は、研究会の発足10年（2012年）を迎え、第10回研究会となります。現場に生かす研究発表と議論の場づくりを主眼としながら、学術的色彩をも持つ「ハンドボールコーチング学会」設立に向けて準備する計画です。また、唯一のハンドボール学術雑誌である「ハンドボール研究」への投稿も推奨すると同時に、編集委員会を組織して価値の高い研究誌を推進する予定です。

【現在の研究会組織】

代　　表：田中　守（福岡大学）
顧　　問：平岡秀雄（前代表・相談役）
事務局長：栗山雅倫（東海大学）

第9回ハンドボールコーチング研究会

■基調講演

「オリンピック出場に向けて」

水上　一（筑波大学名誉教授）

■一般研究発表演題

1．ハンドボールの "Introduction Traininng" について
栗山雅倫、辻　昇一

2．日本のハンドボールの進むべき方向についての一考察
―ゲームの組み立て方に着目して―
大西武三

3．ハンドボールにおける基本プレイ・アルゴリズム構築に関する研究
―戦術プレイのコンセプトとトレーニング法―
清水宣雄、東　俊介

4．ハンドボールにおける基本プレイ・アルゴリズム構築に関する研究
―セットオフェンスのコンセプトとプレイの継続性について―
東　俊介、清水宣雄

5．7mスローにおける駆け引きについて
―ゲーム理論を用いた分析―
櫻井恵志朗、清水宣雄

6．コーチング研究の課題に関する提案
平岡秀雄

7．高校からハンドボールを始める新入生のためのトレーニングプログラムの開発
佐藤光浩、會田　宏、河村レイ子

8．シュート位置とシュートコースの定量化手法の提案
市村志朗、小笠原一生、仲田好邦、稲福貴史、斎藤慎太郎、舎利弗学、田村修治、田中　守

9．ハンドボールのシュート動作における手先加速メカニズムの動力学的解析
―腕のしなりを利かせたシュートに着目して―
小笠原一生、田中　守、田村修治、斎藤慎太郎、市村志朗、仲田好邦、稲福貴史、舎利弗学

10．ハンドボール競技におけるシュート動作に関する実践研究
―コンパクトなスウィング技術に着目して―
山下純平

11．第22回男子世界選手権　日本代表報告
酒巻清治、舎利弗学

12．ハンドボール競技におけるセットディフェンスに関する研究
―積極的・予測的防御行動に着目して―
松本優也、水上　一、會田　宏

13．ハンドボールにおけるサイドシュートの事例的研究
―知の獲得について―
下川真良、杉森弘幸、森　裕太

14．審判員の資質・能力構成要因に関する研究
森　裕太、杉森弘幸、下川真良

15．ハンドボール競技における世界の動向
村松　誠

医事委員会だより

昨年度に引続き、本年度も医事専門委員会委員長を仰せつかり、活動していくこととなりました。この一年、皆さまのご協力、ご理解をお願い申し上げます。

さて、平成23年度協会役員の新体制に伴い医事委員会においても5つの部会を編成して活動を行う計画です。

1）**ドクター部門**：整形外科、内科、歯科等各科の先生方の調整役として佐久間が担当。活動内容は、帯同ドクターの調整、研究のサポート（昨年度は "水分摂取量が審判のパフォーマンスに与える影響について（仮題）" を審判部　植村委員長と合同で計画。今年度の実行に向けて調整中。）またアンチドーピングの啓蒙活動（アンチ・ドーピング特別委員長　坂本静男先生との合同での活動が主となります。）さらに「ハンドボール競技における外傷／障害調査」を行いデーター蓄積の構築を行う（情報科学専門委員会／田中守委員長、トレーナー部門と共同。）。

2）**トレーナー部門**：昨年度の準備期間を経まして、本年度から高野内俊也氏（全日本女子専属トレーナー）が担当。活動内容は、各カテゴリーのナショナルチームの帯同トレーナーの調整、NTSでのメディカルチェック部門等の調整などを行う。

3）**栄養部門**：管理栄養士／村井美保子氏が担当。昨年度までと同様に継続事業としてナショナルチームの栄養調査と個別指導の徹底を行う。

4）**ファーマシスト（薬剤師）部門**：公認スポーツファーマシスト　藤森徹氏（日本ハンドボール協会常務理事）が担当。アンチドーピングの啓蒙活動および当協会が関連するドーピングコントロール検査での取り纏めをアンチ・ドーピング特別委員会と共同作業で行う。

5）**ナース部門**：各種国内主要大会における救護活動のサポートを目的として設立予定。現在、準備調整中です。どなたか適任者がおられましたら推薦をお願いします。

以上、本年度医事委員会事業計画の概略をお伝えしました。色々なご意見ご指導を頂ければ幸いです。

（文責・医事専門委員会委員長　佐久間克彦）

平成23年度 第14回ハンドボール研究集会要項

テーマ「ゴール型教材としてのハンドボール —その4—」

【趣　旨】平成20年3月28日に改訂告示された小学校新学習指導要領では、5・6年生のボール運動が現行の種目の列挙を改定して3つの型に分けられ、多彩な運動が選択できるようになった。すなわち、内容の取扱いの中で、「ゴール型はバスケットボール及びサッカーを、ネット型はソフトバレーボールを、ベースボール型はソフトボールを主として取り扱うものとするが、これらに替えてそれぞれの型に応じたハンドボールなどのその他のボール運動を指導することもできるもの」とされ、さらに「学校の実態に応じてベースボール型は取り扱わないことができる」とされた。すでにハンドボールについては、従前の指導要領の全面実施によって、多くの授業実践が報告されるようになってきた。そしてほぼ10年間に渡る学校体育ハンドボール検討委員会の活動の成果として、ハンドボールは子どもたちの投能力を中心とした体力・運動能力の向上に適していることに加えて、他のボール運動より教材づくりや戦術学習が容易であること。さらに、小学1年生から6年生までの児童にとって取り組みやすく、楽しくできることなど、独自の諸特性をもっていることが明らかにされている。従って今回の改訂を受け、走・跳・投のバランスのとれたハンドボールの教材としての価値がさらにアピールされていくとともに、低・中学年のゲーム領域との関連性を考慮した一貫指導体系が確立されていかねばならないという必要性に迫られている。本研究集会では、ハンドボールの魅力や諸特性に対してさらに認識を深めると同時に、子どもたちの発育・発達に見合ったゴール型教材としてのハンドボールの指導体系の構築を目指した内容について研修する。

【主　催】(財) 日本ハンドボール協会

【主　管】長野県ハンドボール協会

【後　援】文部科学省　長野県教育委員会　千曲市教育委員会

【対　象】小学校、中学校および高等学校教諭。教員養成大学学生、大学院生および教員。地域スポーツ指導者。日本ハンドボール協会J級指導員等。

【会　期】平成23年7月28日（木）～29日（金）

【会　場】千曲市立埴生小学校

〒387-0015 長野県千曲市鋳物師屋7

TEL（026）272-0158　　FAX（026）272-4454

しなの鉄道屋代駅下車　屋代駅前交差点を南に徒歩15分

および「稲荷山温泉　ホテル　杏泉閣」(宿泊場所住所等参照)

【日　程】

■7月28日（木）

受　付　12：00～12：30（「稲荷山温泉 ホテル 杏泉閣」）

開会式　12：30～12：50

講　演　12：50～13：50

講　師　文部科学省教科調査官　石川泰成

研究発表　14：00～15：10

実技研修　15：40～17：10（千曲市立埴生小学校）

講　師　信州大学教育学部准教授　渡辺敏明

交流会　18：00～20：00

■7月29日（金）

受　付　8：30～ 9：00（千曲市立埴生小学校）

授業提案　9：00～11：00

千曲市立埴生小学校　6年「ハンドボール」授業

質疑応答・討論会

講　義　11：00～12：00

講　師　秋田大学教育文化学部教授　佐藤　靖

閉会式　12：00～12：15

【学校体育ハンドボール検討専門委員会事務局】

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1

秋田大学教育文化学部スポーツ・健康教育講座　佐藤靖気付

TEL（018）889-2577　　FAX（018）889-2577

E-mail：yasushi@ed.akita-u.ac.jp

【大会事務局】

〒389-0601 長野県埴科郡坂城町坂城6186-1

AOスポーツ企画販売株式会社内

長野県ハンドボール協会　青木和彦気付

TEL（0268）82-1175　　FAX（0268）82-1174

E-mail：aho@lion.ocn.ne.jp

【参加費】4,000円（学生、大学院生2,000円。資料代、および保険料込み。当日受付にて徴収いたします。）

【参加申込】参加等申込書を用いるか、①氏名　②年齢　③勤務先　④連絡先住所・電話番号　⑤交流会参加の有無を明記の上（書式自由）、ハガキ、ファックスまたはEメールにて大会事務局までお申し込み下さい。

1）締切り日：特に設けません。当日も受け付けます。(但し、宿泊希望者は7月12日(火)までにお願いいたします。)

2）派遣書が必要な場合は、その旨ご記入下さい。

【発表申込】研究集会のテーマに関係する研究、および実践報告を募集します。発表を希望される方は、学校体育ハンドボール検討専門委員会事務局まで直接ご連絡下さい。

1）口頭発表・質疑時間：発表時間は、質疑応答時間を含め、一演題につき約12分です。発表時間は演題数により変更することもあります。

2）発表にはビデオ、パワーポイントまたは資料等を使うことができます。資料を配布される方は、100部程度ご用意下さい。

3）締切り日：平成23年7月12日（火）

尚、資料の送付を希望される方は、期限までに大会事務局までご郵送下さい。その他、発表に関してご不明な点はお問い合わせ下さい。

【宿　泊】宿泊希望者は7月12日（火）までに大会事務局までお申し込み下さい。一泊朝食付き7,000円

「稲荷山温泉　ホテル　杏泉閣」

〒387-0021　長野県千曲市稲荷山571-1

TEL（026）272-1154

しなの鉄道屋代駅下車徒歩30分　屋代駅より送迎バス有り

平成23年度授業実践推進制度に基づく授業実践者の募集

小学校体育科授業における
ゴール型ハンドボール教材の展開について

1　趣旨

小学校におけるゴール型教材としてのハンドボールの課題を設定し、総合的に授業実践を行ない、体育科授業の充実を図るとともに、ハンドボールの普及を図る。

2　授業実践内容

（1）授業実践のテーマは次のとおりとする。

　ア　児童の体力（投能力）の向上に関する取組の在り方と進め方。

　イ　簡易ゲーム（タスクゲーム等）の工夫とその指導の在り方。

　ウ　ゴール型教材としてのハンドボールの指導体系の在り方。

　エ　その他

（2）実践者は、「ゴール型ボール運動」、もしくは「ゲーム」でハンドボールを取り上げ、上記の内容から二つ以上のテーマを選び、その一つを主テーマとして、授業実践を進めることとする。

3　実践期間

おおむね2年間とする。

4　対象者

各都道府県協会より推薦された小学校教員で、授業実践を積極的に推進することを希望する者の中から8名程度選定する。選出は（財）日本ハンドボール協会学校体育ハンドボール検討専門委員会で行なう。

5　実践者へのお願い

（1）実践者は、校内における実践体制を整備し、必要に応じて家庭や地域との連携も図りながら、計画的、継続的に授業実践を推進する。

（2）実践者は、（財）日本ハンドボール協会、都道府県ハンドボール協会（市町村ハンドボール協会）の助言の下に授業実践を推進すること。

（3）実践者は、第1年次には授業実践の中間報告書を、また、実践期間の終了時には、実践成果報告書を、それぞれ日本協会の指定する書式にしたがって、都道府県協会を経由して日本協会に提出すること。

（4）日本協会は、必要に応じて実践者および都道府県協会と連絡をとり、授業実践の推進について意見および情報の交換を行なう。

6　経費

日本協会は、研究委託費として予算の範囲内で支出委任する。委託費は、1年目が6万円、2年目が4万円とする。

7　その他

日本協会は、必要に応じて実施状況および経理処理状況について、実態調査を行なう。

8　締切

第一次締切：平成23年7月12日（火）

9　申込、および問合せ先

ご不明な点は、以下にお問い合わせ下さい。

（財）日本ハンドボール協会学校体育ハンドボール検討委員会（代表　佐藤　靖）
〒010-8502 秋田市手形学園町1-1 秋田大学教育文化学部　スポーツ・健康教育講座　佐藤研究室
TEL/FAX:018-889-2577　　E-mail:yasushi@ed.akita-u.ac.jp

協会だより

平成22年度 第2回評議員会

日　時：平成23年2月19日（土）
13：30〜16：00
場　所：味の素ナショナルトレーニング
センター研修室1・2
出席者（敬称略、名簿順）
評議員：松喜美夫、田辺哲彦、谷藤勝美、菅野　肇、奥山重雄、後藤義信、山下勝司、齋藤光男、風間勝也、大東秀明、小見幸男、竹内佳明、山川博行、庄司勝三、石川直樹、村木啓作、夏目眞治、名倉昭弘、秋永昭治、吉田博二、中村博幸、千葉英之、中井公人、田中秀和、小澤敏正、森江和吉、森安昭雄、高野　修、加藤　晃、長尾師夫、田中達男、川村浩之、大宮　泉、冨松秋實、西花丈雄、朝生和光、齋藤節郎　以上37名
委任状提出評議員
今野正志、安田博之、上久保重次、平塚一彦、中浦　悟、浜野大助、松本育男、武田末男、末次　功、石井通義、税所健好、新垣　健、阿部富夫、三辻陽夫、川原繁樹、市田隆文
以上16名
理事：渡邊佳英、市原則之、多田　博、川上憲太、高村誠一、伊藤宏幸、角　紘昭、西窪勝広、江成元伸、植村　彰　以上10名
監事：塩川安賢、荘林康次　以上2名
特任副会長：山下　泉、川上整司、鶴保庸介
以上3名
（事務局）兼子、茂木、床尾
以上、出席評議員37名、委任状出席評議員16名、出席理事9名、出席監事2名、出席特任副会長3名

■渡邊会長より挨拶

公益法人制度改革により、公益財団法人もしくは一般財団法人に分類されるが、日本ハンドボール協会は公益財団法人認定の申請を行う。ロンドンオリンピック予選は今秋、女子は中国で男子は韓国で行われる。1月にスウェーデンで行われた男子世界選手権、日本は結果的には16位と残念なものとなったが、予選リーグでオーストリアに快勝した。IHF理事会の席でも、日本はスピードがあると評価されていた。男女共にオリンピック出場まであと一歩の所に来ている。日本各地で盛り上げていって貰いたい。

■多田副会長

直近の話題を2つ紹介したい。

大阪ハンドボール協会が創立70周年を迎え、記念行事として先日湧永製薬と大崎電気の日本リーグの試合を開催し、2,800人の観客を集めた。実業団チャレンジ大会に並行して、AHF大陸レフェリーコースを福井で開催した。AHFからタワコリ氏、カラフ氏の両名が来られ、8ペアのレフェリーが参加した。日本から参加した4ペアはみな合格し、資格を得る事が出来た。AHFとの関係強化並びに日本のレフェリーの強化につながった。今年秋にはロンドンオリンピック予選が行われる。全力で頑張って欲しい。

■川上整司副会長

日本代表は韓国にもう少しで追いつける段階まで来ている。小学生・中学生・高校生の大会を見ていると、技術的に上がって来ており、10年後が楽しみだ。しかし普及が今一つ伸びていない感じがする。ハンドボールの試合会場に余り観客が入っていない。皆さんに観客動員を是非お願いしたい。

■山下副会長

ロンドンオリンピック予選は、開催国に日本も手を挙げたが、男子は韓国、女子は中国開催となった。韓国はSKの会長が連盟の会長となり、資金力をつけている。また女子ジュニアの世界選手権を開催するなど、大会運営能力もつけている。次の予選は日本の大都市で開催出来るように、集金力・集客力をつけて行きたい。ハンドボールの新聞記事が少なくなっている。地方からの発信を期待したい。

■鶴保副会長

先日和歌山に大同の選手がハンドボールの指導に来てくれた。選手・指導者共に喜んでいた。ハンドボール議員連盟はメンバーが代わったり、政局絡みでなかなか開かれていないが、今後とも応援をしていきたい。

川上専務理事より平成22年度事業報告としてまとめた資料及びパワーポイントで説明があった。

審議事項

1．平成22年度第二次補正予算案について

伊藤財務担当常務理事より平成22年度の第二次補正予算について説明がなされた。補正後は、事業活動収入合計479,484,900円、事業活動支出合計529,632,645円、事業活動収支差額-50,147,745円、予備費支出1,500,000円となり、次期繰越収支差額は62,676,822円となることが説明・承認された。

2．平成23年度事業計画案について

川上専務理事より、平成23年度の事業計画について概略が説明・承認された。

3．平成23年度事業予算案について

伊藤財務担当常務理事より、平成23年度事業予算案について説明がなされた。平成23年度は、事業活動収入合計535,038,000円、事業活動支出合計536,909,187円、事業活動収支差額-1,871,187円、積立金取崩収入10,000,000円、予備費支出1,500,000円となり、次期繰越収支差額は69,305,635円で予算立てしたことが説明・承認された。

4．平成23・24年度役員選任について

会長より、2月7日に行われた代表評議員会開催経緯の説明があった。

これを受け、村木評議員より空欄となっている理事20名、監事3名について、先般の同会議で検討したことに基づき、理事候補者

20名及び監事2名について氏名が発表された。

【理事20名】

渡邊　佳英	市原　則之	多田　博
川上　憲太	高村　誠一	角　紘昭
西窪　勝広	江成　元伸	蒲生　晴明
大橋　則一	志々場　修二	植村　彰
田中　茂	藤森　徹	朝生　和光
松井　幸嗣	船木　浩久	稲生　茂
山川　博行	森安　昭雄	

【監事2名】伊藤　宏幸　　近森　克彦

報告事項

1．日体協 JOC100 周年記念功労者と平成 24 年叙勲候補者推薦

伊藤総務本部長より説明があった。理事会で推薦者を決定する。

2．平成 23 年度登録について

伊藤常務理事より説明があった。

3．平成 23 年度国内・国際・ブロック大会日程について

江成競技本部長より説明があった。

4．平成 23 年度会議日程について

伊藤総務本部長より説明があった。

川村評議員（福岡）より、6月18日（土）9：30より評議員会が予定されているが、ブロック大会があり出席は厳しい。

6月18日の予定は動かさないで、開始時間を遅らせる事で対応する事となった。

5．強化本部報告

西窪強化本部長より平成22年度大会について資料およびDVDによる映像で説明があった。女子ナショナルは、高さ対策として国内男子チームに協力してもらう。男子ナショナルは、海外勢との試合を多くしていく。

川上専務理事より、10月のオリンピック予選に向け、日本代表を7，8，9月とナショナル活動に専念させたい。従って、7月の社会人選手権や国体の予選本選に影響が出る事も考えられる。具体的になった時点で、改めてお願いするつもりだ。

6．全日本社会人連盟について

江成競技本部長より全日本社会人連盟について説明があった。

各都道府県で1チームでも多くの社会人チームを登録していただき、各地でリーグ戦を出来る様になってもらいたい。

川上専務理事より、各都道府県で社会人チームを増やし、全日本総合選手権に結びつくような体制を築きたいとの説明があった。

7．公益財団法人移行について

伊藤総務本部長より公益財団法人移行について説明があった。

8．日本協会創立 75 周年記念誌について

川上専務理事より日本協会創立75周年記念事業の1つである記念誌作成について説明があった。

9．第 35 回日本リーグプレーオフについて

高村JHL委員長より、第35回日本リーグプレーオフについて、説明があった。

10．がんばれ 20 万人会について

伊藤総務本部長よりがんばれ20万人会について説明があった。

11．平成 22 年度第 2 回理事会（11/6 開催）議事録

議長より目を通しておくよう依頼があった。

閉会にあたり、今期で勇退いただく監事より挨拶があった。

荘林監事は、2期4年間監事を務めさせていただいたが、あっという間であった。有難うございました。今年10月に我々のメインターゲットであるオリンピック予選が行われる。苦戦が予想されるが、朗報を期待したい。

塩川監事は、選手から始まり日本協会監事まで、長い間ハンドボールに携わって来ている。今期で監事を退きますが、引き続き熱いエールを送ります。

市原副会長より、閉会の挨拶があった。第2回評議員会にお集まりいただき有難うございました。日本協会は事業規模は拡大していますが、予算が追いつかない状況です。オリンピック出場に全てのベクトルを合わせており、全国の皆様のご支援をお願いする次第です。公益法人制度の改正により、5年以内に何れかの法人へ移行する。新制度ではガバナンスに関する様々な事項が定められている。相撲協会の例は他山の石ではない。

国とスポーツの関わりについて、幾つかの型が見られる。国が完全に支配しているのが、中国とカザフスタン。アメリカは民間が主導。韓国は日本と似ており、企業と国のタイアップ型だが、税法とか年金や報奨制度といった面が違う。税制をとってみても、日本は寄付が集まりにくい制度下にある。スポーツ庁設置については、民主、自民超党派でやっていただく様に要請している。スポーツ少年団でハンドボールをやっているところも少ない。もっと増やす努力が必要です。日本協会は社会人トップチームを更に増やして行かなければならない。今後とも皆様方のご協力をお願いします。

平成 22 年度 第 3 回理事会

日　時：平成23年2月26日（土）
　　　　13：30～16：30

場　所：味の素ナショナルトレーニングセンター研修室1・2

出席者（敬称略、名簿順）

理事：渡邊佳英、多田　博、川上憲太、高村誠一、伊藤宏幸、角　紘昭、西窪勝広、江成元伸、蒲生晴明、大橋則一、志々場修二、植村　彰、工藤雄三、松井幸嗣、河先　修、稲生　茂　　以上16名

監事：塩川安賢、荘林康次　　以上2名

特任副会長：川上整司　　以上1名

参事：石塚廣一、古屋正俊、小西博喜、小島収治、高山重雄、杉本眞一、前川和三、佐藤公美、佐藤喜一、中野利一、近久紀人、大原康昇、小山哲央、大村　久、井口京子、佐久間克彦、福地賢介、田中　守、越田義昭、藤森　徹、兼子　真　　以上21名

欠席者（敬称略、名簿順）

理事：市原則之、田中　茂、城川俊久、山本　一（委任状提出有り）　　以上4名

（事務局）茂木　均、床尾康子

以上、出席理事16名、委任状出席4名、出席監事2名、出席特任副会長1名、出席参事21名、事務局2名

議事録署名人

議長、川上憲太専務理事、角　紘昭常務理事、稲生　茂理事

〈理事会成立の確認〉

定刻に開会し、兼子事務局長より、本会議が財団法人日本ハンドボール協会寄附行為第26条に定められた、理事現在数20名中委任状出席を含め20名の出席にて3分2以上の出席があり定足数を満たしており、本理事会が成立していることが報告された。

■渡邊会長より挨拶

本年は改選期にあたり、先週の評議員会で、平成23・24年度の役員選任が行われた。

現在、国際情勢特に中東情勢が混とんとしている。この中東がAHFの主導権を握っている。東アジアは加盟国が5ヵ国に過ぎないのに対し、中東は加盟国が沢山あり、選挙で中東が勝ち主導権を握っている。IHF総会はモロッコで予定されているが、情勢が混とんとしている。国際連盟は執行部の体制を変更する動議が提出される。フランスハンドボール連盟と友好協定を結ぶ。昨年中国でフランス協会会長と話してある。

フランスは男子世界選手権で2連覇を達成している強豪で、日本にとって大変良い話だ。2015年世界選手権は男子が1回目の投票で過半数を獲得したカタールに決定、女子はデンマークの単独立候補で決定した。韓国協会は昨年の女子ジュニア世界選手権で、傍若無人的な振る舞いがあり、評判が悪い。日本としては各国と友好的にやって行きたい。

〈平成22年度事業報告〉

川上専務理事より平成22年度事業についてパワーポイントを交え説明した。

審議事項

1．平成22年度第二次補正予算（案）について

伊藤財務担当常務理事より平成22年度の第二次補正予算について説明がなされた。補正後は、事業活動収入合計479,484,900円、事業活動支出合計529,632,645円、事業活動収支差額-50,147,745円、予備費支出1,500,000円となり、次期繰越収支差額は62,676,822円となることが説明された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2．平成23年度事業計画（案）について

川上専務理事より、平成23年度の事業計画について概略が説明された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3．平成23年度予算案（案）について

伊藤財務担当常務理事より、平成23年度事業予算案について説明がなされた。平成23年度は、事業活動収入合計535,038,000円、事業活動支出合計536,909,187円、事業活動収支差額-1,871,187円、積立金取崩収入10,000,000円、予備費支出1,500,000円となり、次期繰越収支差額は69,305,635円で予算立てしたことが説明された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

4．平成23・24年度役員選任について

渡邊会長より、評議員会の選任結果について説明がなされた。それぞれの役職については、3月19日開催の新理事会で決定する。

【理事20名】

1．渡邊　佳英
2．市原　則之
3．多田　博
4．川上　憲太
5．高村　誠一
6．角　紘昭
7．西窪　勝広
8．江成　元伸
9．蒲生　晴明
10．大橋　則一
11．志々場　修二
12．植村　彰
13．田中　茂
14．藤森　徹
15．朝生　和光
16．松井　幸嗣
17．船木　浩久
18．稲生　茂
19．山川　博行
20．森安　昭雄

【監事2名】

1．伊藤　宏幸
2．近森　克彦

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

5．平成23年度JOC専任コーチ等推薦及び代表活動について

西窪強化本部長より、平成23年度のJOC専任コーチングディレクター、メディカルトレーナーについて、平成22年度のメンバー6名で引き続き行うことで強化は考えている旨説明した。

川上専務理事より、日本代表選手、候補選手の社会人選手権や国体の予選本大会への不参加問題について説明があり、10月のオリンピック予選に向け、日本代表を7～9月にナショナル活動に専念させたい。従って、国体の予選本大会への出場に関しては、基本的に代表選手は不参加としたい旨説明があった。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

6．日体協JOC創立100周年記念功労者、H24叙勲候補者推薦

伊藤総務担当常務理事より、説明がなされた。記念功労者は元副会長の徳永陸繁氏を、また叙勲候補者は元専務理事の大野金一氏を推薦したい。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

7．全日本社会人連盟設立について

江成競技担当常務理事より、現実業団連盟は発展的“改称”をすることで、全日本社会人連盟へ移行することが説明され、各都道府県で1チームでも多くの社会人チームを登録していただき、各地でリーグ戦が出来る様に希望した。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

報告事項

1．強化本部報告

西窪強化担当常務理事はDVD映像で報告した。女子ナショナルは、高さ対策として国内男子チームに協力してもらう。一方男子ナショナルは、海外勢との試合を多くしていく。男子世界選手権、女子アジア選手権・アジア

競技大会での試合内容をDVDで紹介し、日本チームの目下の問題点等を指摘した。

2．平成23年度登録について

伊藤総務担当常務理事と兼子事務局長より説明があった。新登録システムの採用により、登録証発行、登録料収受等で省力化が大幅に図れる。またシステムの作業手順について説明した。

3．公益法人移行について

伊藤総務担当常務理事より公益財団法人移行について説明があった。

4．平成22年度日本協会表彰について

伊藤総務担当常務理事より平成22年度日本協会表彰について説明があった。

5．平成23年度国内・国際大会ブロック大会日程について

江成競技担当常務理事より説明があった。

6．平成23年度会議日程について

伊藤総務担当常務理事より説明があった。6月18日第1回理事会は開始時間を10時とした。

7．審判合同委員会、AHFレフェリーコース報告

植村審判担当常務理事より説明した。AHFレフェリーコースに日本から4ペアが参加し、全員優秀な成績で合格した。世界選手権やオリンピックの試合を担当出来るレフェリーに育てたい。本田・田渕ペアを今年ドバイで開催されるGRTP（グローバル・レフェリー・トレーニング・プログラム）への参加を推薦したい。3月12日、13日の日本リーグプレーオフにイランのレフェリーペアを招く。

8．国際関連事項について

蒲生国際担当常務理事より説明があった。平成22年度JOC/NF国際担当者フォーラムについての報告、並びに第22回男子世界選手権（スウェーデン）の視察報告がなされた。

9．ジャパンカップ2011について

川上専務より、世界の強豪チームが来るので、是非子供達に見せてやりたい。今年秋のオリンピック予選に向けて、日本代表を盛り上げて行きたい。

10．NTSについて

角普及担当常務理事よりパワーポイントを交え説明した。

11．ホームページ、機関誌について

大橋広報担当常務理事より説明した。機関誌のバックナンバーを4月1日を目途に日本協会ホームページに掲載する。

12．第35回日本リーグプレーオフについて

高村日本リーグ担当常務理事より説明した。男女共にプレーオフ出場チームが本日最終戦で決定した。

13．協会公認ハンドボール保険

伊藤総務担当常務理事より説明があった。

14．がんばれハンドボール20万人会

中野参事より説明した。サポート会員がゼロの県は入会の促進をお願いする。

15．その他

江成競技担当常務理事より、第65回国民体育大会における山口県選手の参加資格違反について、説明があった。山口県から参加した選手中72名が非居住者であり、内35名について居住の実態がなかった。処分については以下の通り。

当該選手には、処分なしで成績の見直しも行わない。山口県体育協会には、厳重注意処分。総合成績は、該当する選手の得点を減算して出す。中央競技団体には、注意処分と説明があった。

小山参事より、来年度のマスターズの要項は3月中に整備作成し配布します。

小西参事より、車椅子ハンドボール大会は平成23年度は和歌山で実施する。平成24年度については滋賀県彦根市開催で交渉している。

閉会に当たり、多田副会長より挨拶があった。今日の理事会が2年間の任期の締め括りとなります。ご苦労さまでした。今年秋にはオリンピック予選があり、日本代表の集大成の年と言える。日本リーグプレーオフには沢山の人に見に来てもらいたい。BS12で全試合を中継する。2つほど苦言を呈したい。1つは男子世界選手権のプログラムで使われていた日本代表の集合写真で、Tシャツまがいの服装だった。次回よりこの様な事は無くす。

2つ目は大学チームで、監督の指導の仕方について目に余るケースがある。今後何らかの対応策が必要である。

平成23年度 新理事会

日　時：平成23年3月19日（土）
13：30～15：30

場　所：味の素ナショナルトレーニングセンター研修室1・2

出席者（敬称略、名簿順）

理事：渡邊佳英、市原則之、多田　博、川上憲太、大橋則一、角　紘昭、西窪勝広、江成元伸、藤森　徹、志々場修二、植村　彰、田中　茂、松井幸嗣、稲生　茂、山川博行、森安昭雄　以上16名

監事：近森克彦　以上1名

特任副会長：川上整司　以上1名

欠席者（敬称略、名簿順）

理事：高村誠一、蒲生晴明、朝生和光、船木浩久（委任状提出有り）　以上4名

（事務局）兼子　真、茂木　均

以上、出席理事16名、委任状出席4名、出席監事1名、出席特任副会長1名、事務局2名

■**渡邊会長より挨拶**

新年度、各理事にはハンドボール活性化のため、引き続き頑張っていただきたい。

今般未曾有の大地震に襲われ、ハンドボール界は日本リーグプレーオフ、高校選抜、春中と中止となっている。

復興に向けた元気の源はスポーツだと思うので、ハンドボールも盛んに活動したい。

これからの2年間、団結し、発展に努めましょう。

議事進行は、審議事項より行うが、当日メインパートナーの株式会社アシックスが、日本代表の新しいユニフォームデザインについての提案に来ていたので、最初にこの議題より入った。

審議事項

1．代表ユニフォームデザインについて

株式会社アシックス、松本信宏様より、ロ

ンドンオリンピックへ向けての日本代表のデザインについて、パワーポイントを用いて説明があった。

(多田副会長) 提案のユニフォームは多様な色が使われいて、また抽象的な形であるため、日本をイメージできない。

(植村常務理事) 新デザインだと韓国のユニフォームとの区別が難しい。(審判上)

(松本・アシックス) ジャパンカップで現物を見て、判断をお願いしたい。秋のオリンピック予選までに色変更は可能だと思う。

審議の結果、ジャパンカップは新ユニフォームを着用することで決定した。

2. 平成23・24年度役員担当 (組織図) について

渡邊議長より、寄付行為に従い2月の評議員会において平成23・24年度の理事が選任されたので、これを受け本理事会では、役員の担当を互選により決定することが説明された。互選による結果は下記のとおり。

会長	渡邊 佳英
副会長	市原 則之
副会長	多田 博
専務理事	川上 憲太
常務理事	高村 誠一
常務理事	大橋 則一
常務理事	角 紘昭
常務理事	西森 勝広
常務理事	江成 元伸
常務理事待遇	志々場 修二
常務理事待遇	蒲生 晴明
常務理事待遇	藤森 徹
常務理事待遇	植村 彰
常務理事待遇	田中 茂
理事	朝生 和光
理事	松井 幸嗣
理事	船木 浩久
理事	稲生 茂
理事	山川 博行
理事	森安 昭雄

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3. 男子世界選手権参加報酬等配分について

川上専務理事より、1月に行われた男子世界選手権でチームや選手に報酬が出されるので、その配分方法について説明がなされた。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

4. 平成22年度日本協会表彰日本協会推薦について

川上専務より、平成22年度の日本協会からの推薦者について説明がなされた。

4月度常務理事会で候補者を推薦する。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

報告事項

1. 東北地方太平洋沖地震について

川上専務理事から、今回の東北地方太平洋沖地震に伴う各事業の対応について説明があった。

日本ハンドボール協会として、50万円の義援金を出す。

(市原副会長) 今般の未曾有の大災害に対し、JOCはスポーツ会全体に義援金を呼び掛けることとした。

また支援物資として、防寒に役立つ様にスポーツウェアを集めている。ミズノ、デサント、アシックスの協力も得ている。同時にスポーツドクターを被災地に送り込めるように準備している。

JOCとして1,000万円の寄付をする。

世界各国から見舞いが来ているが、日本全体が壊滅状態だと思われている。

我々は消極的になってはいけない。スポーツ界がスポーツを止めたら、スポーツ界ではなくなってしまう。特に将来を担う若者の歩みを止めてはならない。

2. 平成23・24年度役員 (参事) 推薦について

川上専務理事より、参事の推薦が依頼された。

3月中に本人の了解をとりたい。

3. 平成23年度国内・国際大会・会議日程について

江成常務理事より、平成23年度大会日程について説明があった。

4. 平成23年度登録について

大橋常務理事より平成23年度の登録について説明があった。

5. 平成23年度競技運営に関する通達について他

江成常務理事より平成23年度の競技運営通達事項について説明があった。

6. 審判委員会報告

植村常務理事より、審判委員会からDVDと問題集販売について説明があった。

初版 DVDは800枚 問題集は1,500部

来年度AHFレフェリーに、先般レフェリーコースを修了した4ペアを入れた。

7. その他

(川上専務理事)

- 今秋のオリンピック予選に伴う、ナショナル選手の国内大会への不参加について国体予選、社会人選手権大会には大会直前となるが、チームへ合流できるように考えている。国体本大会については不参加となる。
- 高校選抜、春中について、中止となったが補助金を既に出しているので、処理については次回常務理事会に諮る。
- 各本部長は、各会議の開催頻度を減らし旅費の軽減を図って欲しい。来年度は常務理事会をもっとコンパクトなものにしたい。

(稲生理事) サッカーの審判は禁酒禁煙を実行している。ハンドボールの審判も自己管理に努めるべきだ。また大会へ行った時、大会期間中の最初から最後までいて欲しい。

強化関係について、国際大会へ参加した時には映像などの情報が欲しい。

(近森監事) オリンピック出場から遠ざかっているので、協力できればと思っている。

2年前に久しぶりにドイツへ行ったが、プレーが相当に変化している事に驚いた。守って速攻のスタイルだ。

(荘林監事) 2期4年間、常務理事会は皆勤でした。

会議の審議事項に関し、意見が少ないと感じた。報告会になってしまっており、もっと活発な意見交換をするべきだ。

ロンドンオリンピック予選は男女共に敵地での闘いとなるが、チームと関係者の力を合せて頑張って欲しい。

(高田監事) 新しいチームが作られる様に普及活動が大事だ。かつて高校生の登録人数が55,000人であったが、現在は約40,000人だ。

日本協会の発展を願っています。

(塩川監事) 新しい公益法人となると、理事の連帯責任が以前より問われる。

会議全体に熱気が足りなく、自分の担当する分野だけを説明をしている。もっと気概を持って望んで欲しい。

閉会に当たり、多田副会長、市原副会長より挨拶

(多田副会長) 昨日トップリーグ連携機構の理事会で、森会長が挨拶され、今般の震災について触れられていた。東北人はお互いに助け合うという日本人本来の良さを持っており、彼らに尊敬の念を持っている。

ハンドボールが日本を元気づけるようにして欲しいし、オリンピック出場はまさに元気づけとなる。

(市原副会長) 日本協会の大きな事業に、強化と普及がある。強化はオリンピック出場を果たす事、普及は底辺拡大、競技人口を増やす事である。

大会をむやみに中止したりせずに、若者の歩みを止めないようにしたい。

マイケル・グリーンが国力について語り、①外交力②経済力③防衛力④ソフトパワー(頭脳・順応性)⑤意志力の5つを挙げている。

執行部は何処にポジションをおいて、役に立てるかを考えて行動して欲しい。

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」4・5月入会・継続会員

【北海道】加藤慶仁【岩　手】中舘　豊、高橋元一【茨　城】浜田裕一【群　馬】品田鮎美【埼　玉】吉原　伯、豊田　武、豊田久恵、佐藤秀明、根城　泰【千　葉】速水駿太、舎利弗芳子、外山朝子、柳田美子
【東　京】塩川安賢、緑川正博、千葉栄一、増田美穂子、杉山　茂、中澤重夫、出原　理、星野法子、市川央人、久保泰郎、大塚文雄、兼子　真、菊地知男、梶間珠美【神奈川】近久紀人、島田信弘、棚村友博、佐分正典、斉藤航大、久保公雄、久保靖子、吉澤和美、河野一郎【富　山】金原　至【石　川】北岡克彦、酒谷信彦
【愛　知】西川勤也、浅野克彦、村木啓作、山本幸代【三　重】伊藤みち子、伊藤克巳【岐　阜】加藤　公
森　勝博、森　三千世、河野公昭【大　阪】吉田敏明、草井文子、大里佳之、森　健一郎、佐藤達宗、大西和雄
【広　島】山下明子、小山　章【福　岡】松尾勝也【熊　本】陣上修一【沖　縄】大城一樹

【7月の行事予定】

【会議】……………………………………………………

7月9日（土）常務理事会（東京）

【大会】……………………………………………………

7月13日（水）～17日（日）
第１回社会人選手権（北海道・函館市）

7月16日（土）・17日（日）
第31回全国クラブ選手権大会・西（静岡県・袋井市）
第31回全国クラブ選手権大会・東（福島県・本宮市）

7月21日（木）～24日（日）
第16回ヒロシマ国際大会（広島市）

7月29日（金）～31日（日）
第24回全国小学生大会（京都府・京田辺市）

7月29日（金）～8月3日（水）
第62回全日本高校選手権大会（岩手県・花巻市）

※お詫びと訂正

５月号の機関誌ですが、チャレンジディビジョンの最終順位（P11）に誤りがございました。
以下のように訂正してお詫び申し上げます。

（誤）３位：ＨＣ山口，４位：大同大学

（正）３位：大同大学，４位：ＨＣ山口

HAND BALL　CONTENTS　Jun. Jul.

常務理事就任にあたっての抱負…………藤森　徹　1
日韓代表国際交流定期戦2011
　報　告…………………………団長・川上憲太　2
　男子監督……………………………酒巻清治　2
　女子ヘッドコーチ……………………黄　慶泳　3
　戦　評……………………………………………　4
第８回東アジアハンドボールクラブ選手権
　男　子……………湧永製薬コーチ・古家雅之　5
　女　子……………北國銀行監督・荷川取義浩　6
　　　　……………………北國銀行・田代ひろみ　7
東日本大震災被災地からの報告
　岩手県ハンドボール協会……………岡市　武　8
　宮城県ハンドボール協会……………渡邉　泰　9
　福島県ハンドボール協会……………飯塚敏章　10
ヨーロッパのハンドボールLIFE：
　海外挑戦から5年経って………………田中麻美　12
フリースロー：球史振り返り新たな歩み…早川文司　14
IHF通常総会報告…………………………………15
2011年度全国大会レフェリー名簿……………16
審判部報告：
　平成23年度JHA公認審判員
　　B級審査会（西地区）に参加して……大井幸乃　00
指導委員会コーチング研究会報告：
　第9回ハンドボールコーチング研究会……田中　守　18
医事委員会だより…………………………………19
平成23年度第14回ハンドボール研究集会要項…………20
小学校体育科授業における
　ゴール型ハンドボール教材の展開について………21
協会だより…………………………………………22
20万人会員／7月の行事予定／もくじ………………28

（登録チームの購読料は登録料に含む）


JAPAN
Fly to win.
勝利へ向かって翔ぶ力を。
日本代表着用モデル・プラクティスウエア
トップ：XH1011 ￥3,045（本体￥2,900）
パンツ：XH1512 ￥3,675（本体￥3,500）
asics
sound mind, sound body
●表示価格は、消費税込みのメーカー小売価格です。（ ）内は消費税抜き本体価格です。●商品についてのお問い合わせは、TEL:0120-77-6338
asics.com
アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。
©J.H.A 平成21年ハンドボール日本代表候補



(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第五一九号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成二十三年六月二十六日印刷
平成二十三年七月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表〇三－三四八一－二三三六
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人 川上憲太
定価 年間 三三〇〇円